

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏 名		玉 島 健二									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
○令和2年度は、「全体的な満足度」が栄養士コース4. 1、ビジネス・医療秘書コース4. 6、幼児教育学科4. 1と、前年度に比べ満足度はアップした。 ○全学一斉の授業であり、基本的に記念ホールでの授業であるので、アクティブラーニング形式には向かない授業である。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
○「全体的な満足度」を上げるように、指導内容等を工夫する。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
①できる限り社会に出てから役立つ授業や内容、生き方について考える授業を配置する。 ②そのために必要な内容や外部講師を招へいし、満足度を高めるように努める。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
①授業そのものは予定通り実施できた。また、授業評価アンケートの自由記述欄では、「様々な外部講師の話を聴くことができて良かった」とか「将来に役立つ授業であった」など、肯定的な意見が多くあった。 ②授業評価アンケートの「全体的な満足度」はビジネス・医療秘書コースにおいて「3. 8」と大きく下がった。①にも記したが、評価が低い原因はよくわからない。授業時間が夕方の時間であること、帰りのバスが混雑することなど、授業の内容と直接関係のない要因で評価が低くなっている可能性も考えられる。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科 目 名	対象学生	内容やレベル		教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度						
現代社会と女性	21S	4. 0		4. 0	3. 8		4. 0		23. 5分	4. 0						
現代社会と女性	21L	4. 1		3. 8	4. 1		4. 0		15. 0分	3. 8						
現代社会と女性	21Y	4. 1		4. 1	4. 3		4. 2		25. 2分	4. 1						
科 目 名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
データがありません																
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
①全学必修の授業であるため、アクティブラーニング形式の授業には難しい側面がある。 ②オフィスアワーについては、実施していない。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
①次年度 (令和4年度) は、「現代社会と女性」を「初年次セミナー」という科目名に改め、かつ1年間で終了する形式とする。 ②内容も、全学統一とし、初年次教育3回、SDGs関連2回、学科横断的内容4回と、これまでの実施内容・方法を一部修正して実施する。																

令和 3 年 後 期 授業評価報告書						氏名		太田 美代									
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
○全体的な満足度では、担当するほとんどの科目で4.0以上であったが、「給食経営管理論」のみ3.0だった。 ○栄養士実力認定試験における、「給食経営管理論」の正答率は70.4%と良い成績を収めることができた。 ○実習系の科目に関しては満足度が高かったが、講義に関しては学習内容が多く、専門的な基礎知識であるにもかかわらず、その重要性を十分に認識させることができなかった。学生の実態に対して教科書のボリュームがあるため、内容を絞って教授し、ワークシートの工夫をすることを今年度に向けての課題とした。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
○専門職としての基礎的な力を養うため、栄養士実力認定試験の短大平均を上回る者80%以上、及びA認定60%以上を目指す。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
○実習演習の授業において、グループや個人での自己評価の場面をつくり、認め、励ますことを通して学びに向かう主体的な態度を育成する。 ○機会をとらえて栄養士実力認定試験の過去問にあたらせ、理解不十分な分野を把握して指導を行う。1年生に対しても教材研究を丁寧に行い、授業のポイントを復習できるワークシートを作成して授業にあたる。 ○基礎学力が十分でない学生も在籍するため、学力向上の強化策として学習会を支援し、教育サポートスタッフの活用を図る。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
○栄養士実力認定試験の結果、A判定31.8%、B判定59.1%、C判定9.1%で、目標の60%には及ばなかった。短大平均を上回った者は45.5%でこれも目標には届かなかったが、平均点では短大平均を0.2ポイントだけ上回ることができた。「給食管理論」においては得点率56.5%と目標の65%に及ぶことはできなかった。試験の趣旨が十分伝わらず、学生が主体的に取り組む意欲を喚起できなかったことが課題であると思われる。 ○学習会への参加者が少なかった。後半、課題未提出者への補習対応も行った。継続参加の学生の学力向上に資することはできたと思われるため、次年度は原則全員参加としたい。 ○新2年生は学習意欲が低い傾向にあり、成績評価もさらに厳しい。いかに興味をもたせ学生の主体的な学びを引き出すかが大きな課題である。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
栄養士スキルアップ特講		20S	4.0		4.2		4.0		4.0		98.2分		4.2				
食品加工学実習		20S	4.3		4.5		4.5		4.5		35.0分		4.5				
学外実習総合演習		20S	4.4		4.5		4.7		4.7		109.1分		4.7				
学外実習Ⅱ		20S	4.5		4.6		4.6		4.7		103.6分		4.6				
ゼミナール		20S	4.4		4.4		4.6		4.4		48.0分		4.0				
子どもの食と栄養		20Y	4.0		4.0		4.0		4.0		38.1分		4.0				
応用栄養学実習		21S	4.1		4.0		4.1		4.0		61.3分		4.0				
栄養教育指導論実習Ⅰ		21S	3.9		4.0		3.9		3.9		78.3分		3.8				
給食経営管理論実習Ⅰ		21S	4.0		4.0		4.1		4.0		71.7分		4.1				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講		20S	選択	22	67.0	1	4.5%	3	13.6%	4	18.2%	12	54.5%	2	9.1%	0	0.0%
食品加工学実習		20S	選択	6	82.7	2	33.3%	2	33.3%	1	16.7%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習		20S	選択	23	84.5	7	31.8%	9	40.9%	4	18.2%	2	9.1%	0	0.0%	0	0.0%

学外実習Ⅱ	20S	選択	23	87.8	12	54.5%	5	22.7%	4	18.2%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	20S	必修	5	96.0	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの食と栄養	20Y	選択	91	84.7	26	28.6%	44	48.4%	18	19.8%	3	3.3%	0	0.0%	0	0.0%
応用栄養学実習	21S	選択	23	77.4	2	8.7%	7	30.4%	11	47.8%	3	13.0%	0	0.0%	0	0.0%
栄養教育指導論実習Ⅰ	21S	選択	23	68.3	0	0.0%	3	13.0%	3	13.0%	17	73.9%	0	0.0%	0	0.0%
給食経営管理論実習Ⅰ	21S	選択	23	77.8	2	8.7%	8	34.8%	9	39.1%	4	17.4%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

○後期は実習系の授業がほとんどだったため、グループワーク、Think-Pair-Share(個で考える→隣と話し合い→全体で共有)、など場の設定を考えたが、新型コロナの感染状況もあり、ある程度距離をとる必要があったため、取り組みにくかった。

○課題にうまく取り組むことができず、期限までに提出ができない学生に対しては、学習会の時間を活用して個別に対応した。

○研究室に質問に来た学生に対しては、その都度丁寧な対応に心掛けた。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・給食経営管理論については、今年度の満足度が4.0だったので、現行の方法を継続し、さらに講義の途中にクイズを挟んで、関心をもたせながら理解の確認を行う。

・実習系の科目については、提出物の作成に苦慮する学生に対し、学習会の時間などを活用して個別指導で対応する。

・応用栄養学実習は、教科書の使い方を考える。栄養教育指導論実習Ⅰは、課題の提示の仕方や説明の仕方を工夫する。

・学生の主体的な学びを引き出すために、それぞれの授業で「場の設定」「自己決定」「自己評価」「個に応じた指導」の工夫を重ねていく。

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		桑原 真美										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
食品衛生学実験：学生の学習意欲や理解度、全体的な満足度については昨年度と比較して特に変化はなかった。引き続き改善を行う。 講義科目：1年生の講義科目については出席カードに質問を記載する学生が多く、学生が何を理解していないのかを知る材料になった。しかしながら、教科書や参考書等に記載されている簡単なことを質問する学生もあり、自ら調べることをしない学生が増えていることも感じた。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
実験、講義科目共に、学生には自ら調べて理解する習慣を身に付けてもらえるよう指導する。 昨年度より学生の学習意欲および理解度を上昇させる。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
食品衛生学実験については、実験前の導入や方法の説明をより詳細に実施する。レポート作成においては考察を書く上で、何を調べて述べればよいのかヒントを提示する。 公衆栄養学は栄養士実力認定試験前までにできるだけ予定の内容を進め、試験に対応できるようにする。 栄養学Ⅱについてはやや授業の進行スピードを落とし、栄養学Ⅰとの関連を説明しながら進める。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
食品衛生学実験については、実験前の導入や方法の説明をしても集中していない学生が多くみられたことが反省点である。レポートについてはヒントを提示したことで充実した内容のレポートを提出してくる学生が増えた一方、まったく指示を聞いていない学生もみられた。また、レポートを期限内に提出しない学生も多々みられた。これらのことが学生の学習意欲や理解度の評価に直結している。内容やレベルについては、年々難しい内容は削除しており、栄養士資格を取得させるにあたってこれ以上、下げることは避けたい。 栄養学Ⅱについては、昨年度とほぼ内容を変更しておらず、授業の進行スピードを落としたにも関わらず、ほぼすべての評価が低下した。併せて授業外学習時間も大幅に低下している。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
栄養士スキルアップ特講		20S	4.0		4.2		4.0		4.0		98.2分		4.2				
食品加工学実習		20S	4.3		4.5		4.5		4.5		35.0分		4.5				
公衆栄養学		20S	4.5		4.5		4.4		4.4		57.3分		4.5				
学外実習総合演習		20S	4.4		4.5		4.7		4.7		109.1分		4.7				
学外実習Ⅱ		20S	4.5		4.6		4.6		4.7		103.6分		4.6				
ゼミナール		20S	4.7		4.5		5.0		4.8		65.0分		4.7				
食品衛生学実験		21S	4.1		4.3		4.0		3.7		82.2分		4.0				
栄養学Ⅱ（ライフステージと栄養）		21S	4.2		4.3		4.0		4.0		39.1分		4.0				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講		20S	選択	22	67.0	1	4.5%	3	13.6%	4	18.2%	12	54.5%	2	9.1%	0	0.0%
食品加工学実習		20S	選択	6	82.7	2	33.3%	2	33.3%	1	16.7%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
公衆栄養学		20S	必修	23	74.6	4	18.2%	3	13.6%	6	27.3%	9	40.9%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習		20S	選択	23	84.5	7	31.8%	9	40.9%	4	18.2%	2	9.1%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅱ		20S	選択	23	87.8	12	54.5%	5	22.7%	4	18.2%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%

ゼミナール	20S	必修	6	99.2	6	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
食品衛生学実験	21S	選択	23	76.3	3	13.0%	7	30.4%	7	30.4%	6	26.1%	0	0.0%	0	0.0%
栄養学Ⅱ（ライフステージと栄養）	21S	選択	23	74.9	3	13.0%	5	21.7%	5	21.7%	10	43.5%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

講義科目におけるアクティブラーニングは実施していない。実験科目においては、自らが考えて実験を行いその結果を考察することで、アクティブラーニングが実施できている。

オフィスアワーについてはその時間に合わせて質問にくる学生はおらず、随時質問や相談を受け付けた。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

次年度は全体的に学生の学習意欲を向上させることが重要課題ではないかと考える。また、年々学生の基礎学力が低下していることを踏まえたコース内での全体的な改善策の検討を行いたい。

令和 3 年 後 期					授業評価報告書				氏名		桑原 倫子						
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
調理学実習Ⅱ…全体でゆっくりなペースで授業を進めたため、調理技術の高い学生には、やや物足りない内容になっていたことが懸念される。 調理学実習Ⅲ…学生の満足度や理解度が概ね高い結果となったので、この方針で授業を進める。 子どもの食と栄養…ただ単調に講義を行うのではなく、調理実習・食物アレルギー講演会と、授業に変化をつけつつ行った。学生の全体の満足度は前年とあまり変化がなかったが、自由記述による回答をみると特に調理実習の満足度が高かったため、次年度も内容を考慮して実行したい。 食品加工学・食品加工学実習…学生の満足度も成績も高かったため、次年度もこの方針で授業を進める。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
調理学実習Ⅱ…授業で作らせる料理や教える調理技術を厳選しつつ、余裕のある学生にも気を配り、難易度の高い内容の学びも実践させる。 調理学実習Ⅲ…基本をふまえつつも、珍しい食材や料理での実習も行い、常にアンテナを張って流行の料理の情報収集も行う。 子どもの食と栄養…講義だけでなく、新型コロナウイルス感染症対策を十分に考慮し、実践できる内容の実習を行う。食物アレルギーについて深く学ばせる。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
調理学実習Ⅱ…新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、必要最低限の接触と会話で授業を行った。そのため基本的内容を教えるのみであった。 調理学実習Ⅲ…調理学実習Ⅱと同じく、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、必要最低限の接触と会話で授業を行った。2年生後期になると、調理技術や知識が身についた学生も多く、昨年度よりも新しく加えたレシピの実習も行えた。 子どもの食と栄養…講義に加え、食育指導演習や調理実習、外部講師の講演聴講など様々な形態の授業を行った。特に、学生たちが職場で必ず必要になる、食物アレルギーの知識については講義や公演等で多く時間を使い授業を行った。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
調理学実習Ⅱ…基本的内容のみの授業であったため、調理について深く学びたい意欲のある学生には物足りなく感じられる内容であったと考える。授業を1回分課題提出形式にしたことも、より一層上記の内容に感じられたことと推測する。 調理学実習Ⅲ…調理技術や知識の身についた学生も多いので、必要最低限の授業でも、こちらの意図を理解し実習を行えた。昨年度より新しくしたレシピの実習も行え、新しい料理を学生に教えることができたことは成果であった。 子どもの食と栄養…演習や実習、外部講師公演など、学生に教科書上だけでなく様々な授業を行えたことは成果であるとする。特に、食物アレルギーに関する講演後の学生の感想文からは、しっかりと考え学んだことが伺えた。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
栄養士スキルアップ特講		20S	4.0		4.2		4.0		4.0		98.2分		4.2				
食品加工学実習		20S	4.3		4.5		4.5		4.5		35.0分		4.5				
学外実習総合演習		20S	4.4		4.5		4.7		4.7		109.1分		4.7				
学外実習Ⅱ		20S	4.5		4.6		4.6		4.7		103.6分		4.6				
調理学実習Ⅲ		20S	4.7		4.7		4.6		4.6		66.8分		4.7				
ゼミナール		20S	4.3		4.3		4.3		4.2		30.0分		4.5				
子どもの食と栄養		20Y	4.0		4.0		4.0		4.0		38.1分		4.0				
調理学実習Ⅱ		21S	4.1		4.1		4.1		4.1		47.7分		4.1				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講		20S	選択	22	67.0	1	4.5%	3	13.6%	4	18.2%	12	54.5%	2	9.1%	0	0.0%

食品加工学実習	20S	選択	6	82.7	2	33.3%	2	33.3%	1	16.7%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習	20S	選択	23	84.5	7	31.8%	9	40.9%	4	18.2%	2	9.1%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅱ	20S	選択	23	87.8	12	54.5%	5	22.7%	4	18.2%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%
調理学実習Ⅲ	20S	選択	23	84.8	6	27.3%	10	45.5%	5	22.7%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	20S	必修	6	98.3	6	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの食と栄養	20Y	選択	91	84.7	26	28.6%	44	48.4%	18	19.8%	3	3.3%	0	0.0%	0	0.0%
調理学実習Ⅱ	21S	選択	23	85.0	7	30.4%	13	56.5%	2	8.7%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

調理学実習Ⅱ、Ⅲ…授業中モニターを使い、調理の様子を学生に見せながら進めている。手元や細かい動作がわかるよう、ズーム機能も活用している。少数ながら授業外で質問に訪れる学生もいた。
 子どもの食と栄養…授業中スライドを用いた説明や、動画の視聴を行った。コロナ禍でも行える食育指導演習や調理実習内容を考え、実践した。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

調理学実習Ⅱ…次年度も、新型コロナウイルス感染症の授業への影響はあると考える。基本的内容はもちろん、応用的内容にも対応させるため配布資料（レシピ）の改善を行う。
 調理学実習Ⅲ…次年度も、新型コロナウイルス感染症の授業への影響はあると考える。15回授業を行えない時は示範動画を撮り視聴させる等、新しい料理や技術の習得に務める。時世で流行している新しい料理レシピを開発し、授業で実践する。
 子どもの食と栄養…講義に加え、演習・実習、講演の聴講など幅広い知識習得に繋がる授業を行う。昨年度に引き続き、食物アレルギーに関する授業に力を入れる。

令和 3 年 後 期 授業評価報告書						氏名		古賀 克彦									
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
① 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、学生間で取り組むアクティブラーニングの導入は出来なかった。 ② 験頻出分野の詳細な説明の実施及び、定期試験への実力認定試験形式の問題の導入を昨年度より多く行ったが、該当科目の実力認定試験の結果は昨年度と同程度で、改善は見られなかった。 ③ 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で学外実習Ⅰは中止となった。実施した学外実習Ⅱにおける実習先の評価は、昨年度より良好であった。 ④ 卒業研究の満足度は4.9（5点満点）と高い結果となった。 ⑤ 食品加工学（講義）および食品加工学実習は受講学生の満足度も高く、円滑に実施できたと思われた。また教員間のコミュニケーションは問題なかったと思われた。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
① アクティブラーニングの導入（すべての科目において）。 ② 栄養士実力認定試験成績向上（臨床栄養学、栄養教育指導論講義）。 ③ 学外実習の評価向上。 ④ 卒業研究の満足度向上。 ⑤ 食品加工学および食品加工学実習の円滑な実施。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
① 講義科目においてアクティブラーニングの導入。 ② 授業中に栄養士実力認定試験頻出分野の詳細な説明の実施及び、定期試験への栄養士実力認定試験形式の問題の導入。 ③ 学外実習総合演習での指導の強化。 ④ 各学生に応じた対応や面談の実施。 ⑤ 食品加工学（講義）および食品加工学実習を円滑に実施するために各教員及び助手との連携強化。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
① 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、学生間で取り組むアクティブラーニングの導入は出来なかった。 ② 験頻出分野の詳細な説明の実施及び、定期試験への実力認定試験形式の問題の導入を昨年度より多く行ったが、該当科目の実力認定試験の結果は昨年度と同程度で、改善は見られなかった。 ③ 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で学外実習Ⅰは中止となった。実施した学外実習Ⅱにおける実習先の評価は、昨年度より良好であった。 ④ 卒業研究の満足度は5.0（5点満点）と高い結果となった。 ⑤ 食品加工学（講義）および食品加工学実習は受講学生の満足度も高く、円滑に実施できたと思われた。また教員間のコミュニケーションは問題なかったと思われた。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度					
栄養士スキルアップ特講		20S	4.0		4.2		4.0		4.0		98.2分	4.2					
食品加工学実習		20S	4.3		4.5		4.5		4.5		35.0分	4.5					
学外実習総合演習		20S	4.4		4.5		4.7		4.7		109.1分	4.7					
学外実習Ⅱ		20S	4.5		4.6		4.6		4.7		103.6分	4.6					
ゼミナール		20S	5.0		5.0		5.0		5.0		72.0分	5.0					
臨床栄養学Ⅰ（病態の理論）		21S	3.7		3.7		3.7		3.6		28.7分	3.5					
栄養教育指導論Ⅱ		21S	3.8		3.8		3.8		3.8		35.2分	3.7					
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講		20S	選択	22	67.0	1	4.5%	3	13.6%	4	18.2%	12	54.5%	2	9.1%	0	0.0%
食品加工学実習		20S	選択	6	82.7	2	33.3%	2	33.3%	1	16.7%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習		20S	選択	23	84.5	7	31.8%	9	40.9%	4	18.2%	2	9.1%	0	0.0%	0	0.0%

学外実習Ⅱ	20S	選択	23	87.8	12	54.5%	5	22.7%	4	18.2%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	20S	必修	5	97.0	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
臨床栄養学Ⅰ（病態の理論）	21S	必修	23	64.0	1	4.3%	2	8.7%	1	4.3%	18	78.3%	1	4.3%	0	0.0%
栄養教育指導論Ⅱ	21S	選択	23	79.2	6	26.1%	6	26.1%	6	26.1%	5	21.7%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングに関しては、後期は実習科目が無かったため実施できなかった。来年度以降は講義科目においてアクティブラーニング科目を導入して行きたい。
またオフィスアワーに関しては基本的に開いている時間であれば壺でも訪問してよい形式で実施した。質問に関しては2年生は学外実習（実習先からの課題対応含む）や定期試験についての相談が多く、1年生に関しては献立作成や定期試験についての相談が多かった。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- ① アクティブラーニングの導入（すべての科目において）。
- ② 栄養士実力認定試験成績向上（臨床栄養学、栄養教育指導論講義）。
- ③ 学外実習の評価向上。
- ④ 卒業研究の満足度向上。

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		江頭 万里子										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
（１）授業評価アンケートの結果は、ゼミナールと秘書実務１は4.3～4.9であり、大方問題はなかったと思われる。マナー学は本年度は、授業法を変え、教科書を使用せず、穴埋めの授業資料を配布し、パワーポイントで授業を行った。授業評価アンケートに話すスピードが速いという意見が多く、穴埋めをするのが難しかった可能性が高い。教員の教え方も昨年度の4.4から0.5ポイント低下し3.9点だった。授業法を再検討する。 （２）ゼミナールにおいては、コロナ禍のため、当初の計画どおりに進めることができなかったが、状況に合わせて活動方法を変更して活動を終えることができた。問題解決力を磨くことができたのではないかと考える。リーダー中心とした活動を目指して連絡をリーダーを通して行ったが、リーダーが負担感を感じる結果となった。 （３）学生の当日担当秘書の取り組みは、真剣であり、秘書の疑似体験の場として有効に機能したものと考えられる。 （４）マナー学の感想に書かれた質問には、全て、次の授業時に回答し真摯に対応した。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
（１）秘書実務１においては、授業内容の定着を図るため、当日担当秘書を継続実施する。 （２）ゼミナールにおいては、リーダーが負担を感じないように注意しながら、学生中心の活動を支援し、ゼミ内の報告・連絡・相談を促す。 （３）マナー学は、穴埋めの授業資料を止め、配布資料を参考に考える問を課題として与え、授業改善を図る。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
（１）秘書実務１においては、授業内容の定着を図るため、当日担当秘書を継続し、併せて反転授業を行い（１コマ）学生が敬語の仕組みを他の学生に説明するアクティブラーニングを行った。 （２）ゼミナールにおいては、連絡はグループメールを利用し、連絡等でリーダーが負担を感じないように配慮した。 （３）マナー学では、穴埋めではない資料を使用し、授業を実施する前の週に資料を配布し、予習課題とリアクションペーパーの提出を課した。 コロナ禍のため、最後の４コマは、遠隔授業を行った。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
学生アンケートの結果は4.2～5.0であり、特に問題はなかったと思われる。																	
（１）秘書実務1では、反転授業を行ったが、学生は主体的に授業に参加し、授業後の調査の結果、この授業法に多くの学生が好感を持っていた。十分な演習の時間を確保するためにも、今後は採用する単元を増やして行きたい。しかし、一人の学生がスマートフォンのセキュリティ上動画を視聴できなかったと答えていたので、今後は事前にそのような場合の対応策を示した上で行わなければならない。 （２）ゼミナールでは、連絡もスムーズに行え、学生の評価も全て５であり、今後もこの方法を続けていきたい。 （３）マナー学では、学生アンケートの全項目で前年度に対して0.2～0.4ポイント上昇しており、次年度も今年度の方法を継続していきたい。 リアクションペーパーに書かれた質問には、対面授業時、遠隔授業時共に次の授業で答えるようにした。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
ゼミナール		20L	5.0		5.0		5.0		5.0		115.0分		5.0				
秘書実務1		21L	4.5		4.5		4.6		4.5		52.5分		4.4				
キャリアアップセミナー1		21L	4.3		4.3		4.4		4.3		22.2分		4.3				
ゼミナール		21L	4.4		4.5		4.6		4.5		45.7分		4.4				
マナー学		21Y	4.3		4.2		4.3		4.3		51.3分		4.2				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ゼミナール		20L	必修	6	80.8	0	0.0%	6	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
秘書実務1		21L	必修	24	83.3	6	25.0%	12	50.0%	5	20.8%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー1		21L	必修	24	82.9	12	50.0%	7	29.2%	3	12.5%	2	8.3%	0	0.0%	0	0.0%

マナー学	21Y	必修	96	84.5	50	52.1%	15	15.6%	17	17.7%	14	14.6%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
担当する全ての科目で、必要に応じてアクティブラーニングを行った。 オフィスアワーは、随時訪問可としていたので、時間に関係なく検定に関する質問等の訪問があった。																
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																
（１）秘書実務では、授業内容の定着を図り、十分な演習時間の確保のため、当日担当秘書を継続し、併せて反転授業を行う。 （２）ゼミナールでは、学生が計画的に主体的に活動できるように支援する。 （３）学習意欲の向上のため、授業の初めに当日の学びの目的を今以上にしっかりと伝え、授業内容に興味を持ってもらえるようにする。																

令和 3 年 後 期					授業評価報告書				氏名		濱口 なぎさ						
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
1) 演習科目は、学生による授業評価アンケートの結果や成績分布の結果から、授業の方法や内容については良かったと考えている。 検定試験は、日商PC検定（文書作成）3級の1年次の受験者が少なかった。医療事務資格に必要な学生は全員日商PC検定（文書作成）3級に合格して卒業した。同検定の2級を3名受験した、合格者が出なかった。年度の指導内容について再考が必要と感じている。 今年度は演習科目においても、学生が意見を示す場を多く設ける。1年次に日商PC検定（文書作成）3級に合格できるよう「ビジネス文書作成2」にて指導を行う。学生のレベルによって上位級の検定試験への挑戦をサポートする。																	
2) 講義科目の「医療管理学」については、振り返りのプリントを上手く活用できたことと、ノートにまとめるよう指示をしたことで、理解の定着が進んだと感じている。次年度は、学生の理解度の確認やコミュニケーションを図るため、リアクションペーパーを活用したい。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
1) 基本的なパソコンの操作法の定着とともに、応用的な課題への取り組みを増やし、学生の実践力を強化する。																	
2) 学生が客観的に自分の実力を確認するためにも検定試験の受験を働きかける。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
1) 「ビジネス文書作成2」は、前期のクラス分けで学生たちがそれぞれ学び身に付けた基礎的な力を、応用する力に伸ばすことを心がけた。具体的には課題によってリアクションペーパーの提出、スキルチェック、小テストを行い各学生の理解度や苦手とする内容を確認し、適切なフィードバックを行った。「オフィス情報演習」では、学生自身が考えて取り組む課題を多く提示し、自主的かつ能動的に取り組むように指導した。「データベース演習」では、テキストを中心に授業を勧めたが、身近にあるデータベースシステムと対比させ、応用的な内容にも取り組んだ。																	
2) 「ビジネス文書作成2」では、学期末に日商PC検定試験を受験し、合格できるような受験対策にも力を入れた。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
1) 授業評価アンケートの結果から、「ビジネス文書作成2」「オフィス情報演習」「データベース演習」については、授業の内容やレベル、教員の教え方は4.4～4.6となっており今年度の内容で良かったと思う。また、学生の学習意欲や理解度も4.3～4.6であり、成績評価の分布からも目標とする成果を達成できたと考えている。特に「オフィス情報演習」で、学生自身が考えて取り組む課題を実施したことで学生の学習意欲の向上が見受けられた。																	
2) 検定試験については、日商PC検定（文書作成）3級は2年生の受験者全員が合格し、2級も3名が合格した。1年生も3級に6名合格と、昨年度より検定受験に意欲的な傾向が見受けられた。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
オフィス情報演習		20L	4.5		4.6		4.6		4.5		72.9分		4.5				
データベース演習		20L	4.5		4.4		4.4		4.4		26.1分		4.5				
キャリアアップセミナー2		20L	4.4		4.3		4.4		4.4		28.6分		4.3				
ゼミナール		20L	4.4		4.2		4.4		4.4		78.0分		4.4				
ビジネス文書作成2		21L	4.5		4.5		4.5		4.3		47.5分		4.5				
キャリアアップセミナー1		21L	4.3		4.3		4.4		4.3		22.2分		4.3				
ゼミナール		21L	4.4		4.5		4.6		4.5		45.7分		4.4				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
オフィス情報演習		20L	必修	23	87.4	12	52.2%	5	21.7%	4	17.4%	2	8.7%	0	0.0%	0	0.0%

データベース演習	20L	必修	23	86.3	9	39.1%	10	43.5%	4	17.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー2	20L	必修	23	84.3	14	60.9%	6	26.1%	2	8.7%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	20L	必修	6	83.3	2	33.3%	3	50.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネス文書作成2	21L	必修	24	78.9	5	20.8%	8	33.3%	8	33.3%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー1	21L	必修	24	82.9	12	50.0%	7	29.2%	3	12.5%	2	8.3%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「オフィス情報演習」では学生によるプレゼンテーションを行った。「ビジネス文書作成2」では、リアクションペーパーを活用した。ゼミナールでは、グループディスカッションを行った。オフィスアワーでは欠席した学生のフォローや面接練習、個人的な相談などの対応を行った。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1) 基本的なパソコンの操作法の定着とともに、学生自身が考えて課題を解決するような応用的な課題への取り組みを増やし、実践力を強化する。リアクションペーパーを活用し、学生の理解度を確認しながら知識や技能の定着を図る。

2) 学生が客観的に自分の実力を確認し、自信を付けさせるために検定試験の受験を働きかける。

令和 3 年 後 期					授業評価報告書					氏名		武藤 玲路					
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
1）前年度のビジネスデータ活用2と社会心理学、臨床心理学の授業では、学生の基礎学力や思考力、学習意欲に二極分化の傾向が見られた。今年度は授業の内容や教材、教授法や課題、自由研究の方法を工夫し、個々の学生の学習意欲と思考力、応用力の育成に努めたい。 2）可能な限りアクティブラーニングの教授法を取り入れ、主体性や問題解決力、人間関係力の育成に努めたい。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
1）学生に質問をしたり、自由研究で発表をさせたりして、アクティブラーニングの教授法を取り入れるようにする。 2）授業中の学生の発言や態度をその場で学生にフィードバックし、学習意欲や問題解決力の育成に努めるようにする。 特に、臨床心理学の授業の最後に、毎回授業の専門用語に関連する活用事例や感想を記述させるようにする。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
1）ビジネスデータ活用2では、授業の前半はテキストに沿ってエクセルの機能と操作方法を説明し、授業の後半では独力で練習問題に取り組む授業内容とした。また、試験の数週間前には、オリジナルの応用問題を出題することで、これまでの授業内容を総合的に理解させ、正確さと迅速さと問題解決力の育成に努めた。さらに、授業の最終回には試験の回答をフィードバックして学生の理解度や不正解の原因を伝え、学習意欲の促進を図った。 2）今年度の社会心理学と臨床心理学では、授業の前半はテキストとオリジナルのプリント教材を用いてテーマに関する用語や理論を説明し、授業の後半ではテーマに関する動画を上映してテーマの理解を深める授業内容とした。また、教員の質問に対する学生の発言をボーナス点として成績評価に加点し、学生の能動的な学習意欲の促進を図った。さらに、毎回の授業の最後にテーマに関する意見や感想のレポートを提出させたり、演習形式の授業や学生の研究発表も授業計画に取り入れたりした。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
1）学生による授業評価アンケートの結果では、演習科目のビジネスデータ活用2と講義科目の社会心理学、臨床心理学を含む全科目において、①内容やレベル、②教員の教え方、③学生の学習意欲、④学生の理解度、⑤全体的な満足度は、殆どが4.0以上の高い評価であった。 2）授業担当教員による成績評価の結果では、ビジネスデータ活用2が平均78.8で、社会心理学が平均78.5点、臨床心理学が平均83.3点であった。S・Aの上位の成績評価を示した割合は、ビジネスデータ活用2が約6割で、社会心理学が約4.5割、臨床心理学が約6.5割であった。今後は、反復練習を多く取り入れた教授法を検討していく必要があると思う。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
臨床心理学		20L	4.4		4.5		4.6		4.6		60.0分		4.4				
キャリアアップセミナー2		20L	4.4		4.3		4.4		4.4		28.6分		4.3				
ゼミナール		20L	4.0		4.2		4.2		4.2		108.0分		4.2				
ビジネスデータ活用2		21L	4.3		4.1		4.5		3.9		82.2分		4.0				
社会心理学		21L	4.4		4.3		4.4		4.2		65.2分		4.2				
キャリアアップセミナー1		21L	4.3		4.3		4.4		4.3		22.2分		4.3				
ゼミナール		21L	4.4		4.5		4.6		4.5		45.7分		4.4				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
臨床心理学		20L	選択	17	83.3	5	29.4%	6	35.3%	6	35.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー2		20L	必修	23	84.3	14	60.9%	6	26.1%	2	8.7%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール		20L	必修	6	80.0	1	16.7%	2	33.3%	3	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネスデータ活用2		21L	必修	24	78.8	5	20.8%	10	41.7%	4	16.7%	5	20.8%	0	0.0%	0	0.0%

令和 3 年 後 期					授業評価報告書					氏名			森 弘行				
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
・ 定期試験前を除くと学習時間が極めて少ないと感じられる。 ・ 定期試験をノート、教科書持ち込み可としていても教科書の内容を読み取ることができない学生が増加している。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
・ 数的理解について、学生による授業を取り入れる。 ・ ウェブデザインでは、ファイルやフォルダの関係が重要となるため、改めて指導を行うとともに、欠席者の遅れへの対応を考慮する。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
・ 数的理解について、これまでも教科書の演習問題を自宅での課題としていたが、これの解答を授業内で学生に解説させた。 ・ ウェブデザインについて、ファイルやフォルダの関係が明確になるようサイト作成の方法を見直した。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
・ 数的理解では、学生による課題の解説により、より理解が深まったというアンケート結果もあったが、教科書の例題を応用できず、説明できない学生も多い。授業外学習時間も増えず、満足度も3.5から3.0へ低下した。 ・ ウェブデザインについて、作成上の注意点やポイントをWebで提示したり口頭で何度も指示を行ったが、自己流で進める学生おり、その対策に時間をとられた。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
ウェブデザイン		20L	4.1		3.9		4.2		4.1		75.7分		4.0				
統計処理		20L	3.3		3.2		3.9		3.1		56.3分		3.3				
キャリアアップセミナー2		20L	4.4		4.3		4.4		4.4		28.6分		4.3				
介護・救急法		20L	4.3		4.2		4.3		4.3		60.0分		4.0				
ゼミナール		20L	4.6		4.4		4.6		4.6		60.0分		4.8				
数的理解		21L	3.5		3.3		4.0		3.0		77.0分		3.0				
ウェブデザイン		21L	3.8		3.7		4.2		3.7		58.7分		3.7				
キャリアアップセミナー1		21L	4.3		4.3		4.4		4.3		22.2分		4.3				
介護・救急法		21L	4.4		4.3		4.3		4.3		18.8分		4.3				
ゼミナール		21L	4.4		4.5		4.6		4.5		45.7分		4.4				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ウェブデザイン		20L	必修	23	85.2	8	34.8%	10	43.5%	4	17.4%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
統計処理		20L	選択	17	68.5	1	5.9%	2	11.8%	4	23.5%	10	58.8%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー2		20L	必修	23	84.3	14	60.9%	6	26.1%	2	8.7%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
介護・救急法		20L	選択	17	78.2	0	0.0%	8	47.1%	9	52.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

ゼミナール	20L	必修	5	82.0	0	0.0%	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
数的理解	21L	必修	24	64.8	1	4.2%	2	8.3%	2	8.3%	19	79.2%	0	0.0%	0	0.0%
ウェブデザイン	21L	必修	24	84.8	5	20.8%	14	58.3%	5	20.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー 1	21L	必修	24	82.9	12	50.0%	7	29.2%	3	12.5%	2	8.3%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・ウェブデザイン、情報処理論、ゼミナールは実技や発表を伴った授業を実施。
- ・定期試験前を除けばオフィスアワーの利用は少ない。質問も、試験でどの問題が出るのかといった内容が多く、暗記に頼る傾向が強い。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- ・口頭での指示を聞かない、板書の転記だけに集中してしまう学生が増えており、その対策を検討する。

令和 3 年 後 期					授業評価報告書				氏名		荒木 正平					
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																
1. 今年度アンケートの結果についても大きな問題はなかったが、講義系の授業（特に子ども家庭支援論）への取り組みについては、学生間で意欲の差がみられたように思う。この点、保育の仕事との関連をより強く意識できるような授業構成について検討を進めたい。 2. 授業や実習はすべて卒後の実践に繋がっているという意識を学生に持たせることで、学びの意欲を高めることが重要となる。学生ごとの関心・意欲を活かし、特性にも配慮した授業構成が今後の課題となる。視聴覚資料やA・L手法の活用のほか、講義自体の内容構成についても、より保育とのつながりを意識できる事例を取り上げるなど、さらに工夫していきたい。																
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																
1. 担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上 学習習慣の定着を図り、基礎的知識の定着を目指す。グループ活動や発表などの演習含め、アクティブラーニングの手法を活かし、学生のより意欲的・主体的な取り組みを促す。講義系の科目においては、学生ごとの取り組む姿勢や関心意欲の差を少なくし、全体のレベルを上げるため、視聴覚教材の活用だけでなく、講義内での事例紹介の取り入れも検討する。 2. 実習指導内容の充実と連携強化 ①各授業における、実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、教員間の協力・情報共有体制の強化、学外の実習協力者との指導に関する連携の強化、②学生の関心・意欲や個別に異なる課題にこたえる個別支援・指導の実施。																
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																
1. 講義形式の科目（社会福祉、社会福祉概論）では、教科書を中心に知識の定着を図りつつ、学生が興味を持って取り組めるような資料や、DVDなどの視聴覚教材を効果的に活用した。演習系の授業（社会的養護Ⅱ）では、学生がより主体的・能動的に考えるためのグループ活動・資料作成からの発表なども取り入れた。各授業においては、レポート課題も活用した。 2. 授業では、実習における実践や就業後の実践も見据えて、授業内容・構成を工夫した。また、新型コロナの感染状況に応じた授業内容の変更、学生毎の課題や理解度に対応するための工夫を行った。																
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
1. 今年度特に大きな影響を受けたのが、社会的養護Ⅱの演習である。新型コロナの感染拡大の影響もあり、グループ演習の形態変更を余儀なくされた。アンケートの結果については、講義系の授業（特に社会福祉）とゼミナールへの取り組みについては前年度より全体に低下しており、学生間での意欲の差に対応した授業が求められると考えている。保育との関連をより意識できるような授業構成について今後も検討を進めたい。 2. 今年度も、授業や実習はすべて卒後の実践に繋がっているという意識を学生に持たせることを意識して授業を行ったものの、新型コロナの感染拡大の影響もあり思うようにいかなかった部分も多かった。特に、学生ごとの関心・意欲を活かすという部分が今後の課題となる。オンデマンド等の授業についてもさらなる改善に向けて取り組みを進めたい。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
社会福祉概論		20S	4. 4		4. 4	4. 5		4. 3		46. 4分		4. 2				
社会福祉		20Y	4. 1		4. 2	4. 1		4. 2		52. 7分		4. 2				
保育実習指導Ⅱ		20Y	4. 0		4. 1	4. 2		4. 2		48. 6分		4. 1				
保育実習Ⅱ		20Y	4. 1		4. 1	4. 2		4. 1		58. 2分		4. 1				
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）		20Y	4. 2		4. 2	4. 3		4. 3		54. 6分		4. 2				
保育・教職実践演習（幼）		20Y	4. 0		4. 0	4. 1		4. 0		52. 8分		4. 0				
ゼミナール		20Y	4. 1		4. 1	4. 4		4. 0		105. 0分		4. 1				
社会的養護Ⅱ		21Y	4. 4		4. 5	4. 4		4. 3		52. 2分		4. 4				
保育実習指導Ⅰ		21Y	4. 6		4. 5	4. 5		4. 5		55. 2分		4. 5				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価										
						S		A		B		C		F		W（脱落）
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人

社会福祉概論	20S	選択	23	82.0	6	27.3%	8	36.4%	3	13.6%	5	22.7%	0	0.0%	0	0.0%
社会福祉	20Y	必修	91	88.2	54	59.3%	28	30.8%	2	2.2%	7	7.7%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ	20Y	選択	91	95.4	75	82.4%	13	14.3%	2	2.2%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	20Y	選択	91	79.6	14	15.4%	47	51.6%	24	26.4%	2	2.2%	0	0.0%	4	4.4%
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	20Y	選択	91	78.1	8	8.8%	41	45.1%	34	37.4%	5	5.5%	1	1.1%	2	2.2%
保育・教職実践演習（幼）	20Y	選択	90	89.7	58	64.4%	19	21.1%	9	10.0%	4	4.4%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	20Y	必修	9	87.8	2	22.2%	7	77.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
社会的養護Ⅱ	21Y	選択	96	82.4	23	24.0%	48	50.0%	16	16.7%	8	8.3%	0	0.0%	1	1.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

〈アクティブラーニングについて〉

先に記した通り、演習系の授業におけるアクティブラーニングの実施が一部予定通りにならないところがあった。現在の状況に応じた形での授業形態を模索していく必要がある。講義系の授業についてはより困難な部分はあるが、あわせて検討を進めたい。

〈オフィスアワーについて〉

効果的に活用できた部分もあるが、改善が必要な部分もある。そもそも学生自身がこの仕組みを知らなかったとの意見も耳にした。周知徹底により、今後さらに学生が訪室しやすくなり、よりスムーズな学生支援の実施につなげられるようにしていきたいと考える。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1. 担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上

やはり今年度も、コロナ感染拡大抑制しつつの取り組みが前提となる。特に新たに担当する「特別な教育的ニーズの理解とその支援」の科目においては、感染拡大を抑えながらもアクティブラーニングの手法を活かしつつ、学生の意欲的・主体的な取り組みを促す授業実践を目標としたい。

2. 実習指導内容の充実と連携強化

①各授業における、実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、教員間の協力・情報共有体制の強化、学外の実習協力者との指導に関する連携の強化、②学生の関心・意欲や個別に異なる課題にこたえる個別支援・指導の実施。

令和 3 年 後 期 授業評価報告書				氏名	織田 芳人		
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）							
①ゼミナール 次年度から週1コマになるので、附属幼稚園等での実践を重視して、保育者としての意識をいっそう高めることができるような協同的学修を探究したい。 ②情報科学 受講生全体として、例年通り、キーボード操作を含むパソコン操作の習熟度に大きな差があると考えられるので、スマホにプリインストールされている文書やスライドの作成アプリを活用すること、スマートフォンを利用した長文入力及びWordへの貼り付けも活用して、キーボード操作を含むパソコン操作の習熟度の差をできるだけ縮小したい。							
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）							
①ゼミナール 班別での協同的学修でパソコン習熟度による不和が生じないように配慮し、できるかぎり学生の主体性に任せて進めたい。 ②情報科学 毎年、受講生全体としてパソコン操作の習熟度に大きな差がある。そのため、学生全員が所有するスマートフォンをテキスト及び画像の入力に活用することを試みる。							
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）							
①ゼミナール 結果的に3班（3名、3名、2名）に分かれて活動。2つの班は附属幼稚園での実践を中心とした活動を行う。1つの班（2名）は保育者に対するアンケート調査を中心とした活動を行う。ゼミナール発表会はコロナ感染拡大のため中止になり、3班の発表を動画で撮影して配信することになった。 ②情報科学 PowerPointの課題は、テキストと画像によるドキュメント作成として、挿入画像をスマートフォンで撮影し、それを本学のメールアドレスへ送る方法をとった。Wordの課題は、実習関連の手書きによるレポートをWordで作成して印刷することとした。テキスト入力はPCで直接行う学生が多かったが、スマートフォンで予め書いたテキストを本学のメールアドレスへ送る方法をとった学生もいた。知育玩具体験及びScratchによるヴィジュアル・プログラミング体験はコロナ感染拡大のため中止とした。							
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に							
①ゼミナール 班別での協同的学修・作業で、パソコン習熟度の差による不和は生じなかった。各班とも実践のまとめ、あるいは、アンケート調査のまとめがスムーズに進み、ゼミナール報告集の原稿作成も順調に進んだ。ゼミナール発表会のための動画撮影・編集もあまりトラブルなく完成させることができた。コロナ感染によって附属幼稚園等での実践を積極的に組み入れることができなかったため、次年度の課題としたい。 ②情報科学 PowerPointによるドキュメント作成は、多くの受講生がテキストと画像の挿入に積極的に取り組んだ様子だったが、時間を持て余した学生も散見されたので、習熟度別の課題設定が課題である。Wordによるレポート作成の課題は、すでに各自の手書き原稿を利用するので、これも多くの受講生が積極的に取り組んだように思われる。Word課題では、応用課題として「園だより」を設定した結果、積極的に取り組んだ学生もいたが、少数に止まった。スライドによる説明に合わせて、受講生が書き込むワークシートの体裁を、従来の横書き1段組から、スライド自体をレイアウトしたもの（スライドの配布資料印刷とは異なる）に変更したため、書き込み易かったようである。それらが全体的満足度4.0を超える要因となったと推測される。							
学生による授業評価アンケートの結果							
科 目 名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育実習指導Ⅱ	20Y	4.0	4.1	4.2	4.2	48.6分	4.1
保育実習Ⅱ	20Y	4.1	4.1	4.2	4.1	58.2分	4.1
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	20Y	4.2	4.2	4.3	4.3	54.6分	4.2
保育・教職実践演習（幼）	20Y	4.0	4.0	4.1	4.0	52.8分	4.0
ゼミナール	20Y	4.0	3.9	4.3	4.1	73.3分	3.9
情報科学	21Y	4.2	4.2	4.2	4.2	33.6分	4.2
領域「表現」の指導法	21Y	4.4	4.4	4.4	4.3	56.7分	4.3
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.6	4.5	4.5	4.5	55.2分	4.5

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		島田 幸一郎										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
1. 特別ニーズ教育（通年） 大半の学生は、特別なニーズのあるこどもの理解とその関わり方についての知識が深まったと考える。しかし、保育現場に就職しない一部学生の学修意欲の向上が大きな課題である。コロナ対策のための教室変更等もあって、視聴覚機器の操作に不手際があったことが反省点である。																	
2. 教育実習 予定どおりに取り組むことができた。事前事後指導を含め、課題となる点はなかった。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
1. 特別ニーズ教育 新型コロナウイルス感染防止に留意しつつ、講義内容や個人発表、プリント記入等を工夫し、アクティブ・ラーニングの一層の充実に努める。																	
2. 教育実習 学生個々の進路実現を図るため、それぞれの場面において適切な指導に取り組む。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
1. 特別ニーズ教育 毎授業、テーマを設定して関連する映像を視聴させる。テーマに沿った講義を行い、授業終了時にテーマ等に関する意見・感想を記述させ提出させる。次授業の冒頭にプリントを返却し、内容のある意見・感想を2～3点授業者から紹介する。																	
2. 教育実習 実習中の巡回指導及び事前事後指導において、成果と課題を本人に問い保育者としての資質向上に努める。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
1. 特別ニーズ教育 テーマを設定と関連する映像視聴、プリント提出・紹介によって、学修の理解が深まったと考える。コロナ感染防止のためグループ学修はできなかったが、提出プリントの内容が前期に比べ充実していたことが大きな成果である。学修したことを保育現場で活かしてくれることを期待している。																	
2. 教育実習 実習は特に問題なかったが、事後指導において1人の学生の対応に不十分さがあった。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
特別な教育的ニーズの理解とその支援		20Y	4. 1		4. 1		4. 1		4. 1		49. 5分		4. 1				
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）		20Y	4. 2		4. 2		4. 3		4. 3		54. 6分		4. 2				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
特別な教育的ニーズの理解とその支援		20Y	必修	91	80. 9	15	16. 5%	40	44. 0%	24	26. 4%	12	13. 2%	0	0. 0%	0	0. 0%
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）		20Y	選択	91	78. 1	8	8. 8%	41	45. 1%	34	37. 4%	5	5. 5%	1	1. 1%	2	2. 2%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
1. アクティブ・ラーニング 特別ニーズ教育において取り組んだが、新型コロナウイルス感染防止の影響もあり十分にできなかった。																	
2. オフィスアワー 保育・教育実習前に、障がいのある子どもの関わり方について数件相談があった。																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
今年度末で退職するため未記入																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書						氏名		高橋 秀樹									
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
今年度より着任したため、前年度の成果と課題なし																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
前後期を通し今年度の目標は学生が主体的に学びを深めれる環境づくりとしていた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により、対面授業の一部が遠隔における課題授業としたため、課題発表やグループディスカッションの取り組みが実施できなかった。このことにより、図書館など大学内の施設を活用した自発的な学習活動の取り組みへの参加と、それを活用したグループでの学習発表活動などに限界があった。改善計画とし、今後はICTなどの活用を考えたい。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
単独の担当科目に関しては、講義や演習授業にて、学生が専門知識や技術の習得を深めやすくするため、画像や映像などの電子器具を用い、学生がイメージをしやすい授業を行った。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
担当科目に関しては、ゼミナールを除く全ての科目において全体的な満足度は4.0以上の評価であった。しかし、ゼミナールの「教員の教え方」は3.7と4.0を下回った。またその結果、ゼミナールの全体的な満足度において4.0を下回った。今後の課題とし、4.0以上の評価があった授業の質は継続・向上をさせながら、ICTの活用を増やし、学生がイメージしやすいゼミナール授業の展開をしていきたいと考える。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
保育実習指導Ⅱ		20Y	4.0		4.1		4.2		4.2		48.6分		4.1				
保育実習Ⅱ		20Y	4.1		4.1		4.2		4.1		58.2分		4.1				
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）		20Y	4.2		4.2		4.3		4.3		54.6分		4.2				
保育・教職実践演習（幼）		20Y	4.0		4.0		4.1		4.0		52.8分		4.0				
ゼミナール		20Y	4.2		3.7		4.3		4.1		63.3分		3.4				
体育講義		21Y	4.1		4.1		4.2		4.1		45.3分		4.1				
体育実技		21Y	4.6		4.5		4.6		4.6		14.4分		4.6				
領域「健康」の指導法		21Y	4.2		4.2		4.2		4.2		41.0分		4.1				
運動遊びの実践（指導法）		21Y	4.3		4.2		4.4		4.3		36.5分		4.3				
保育実習指導Ⅰ		21Y	4.6		4.5		4.5		4.5		55.2分		4.5				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習指導Ⅱ		20Y	選択	91	95.4	75	82.4%	13	14.3%	2	2.2%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ		20Y	選択	91	79.6	14	15.4%	47	51.6%	24	26.4%	2	2.2%	0	0.0%	4	4.4%
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）		20Y	選択	91	78.1	8	8.8%	41	45.1%	34	37.4%	5	5.5%	1	1.1%	2	2.2%
保育・教職実践演習（幼）		20Y	選択	90	89.7	58	64.4%	19	21.1%	9	10.0%	4	4.4%	0	0.0%	0	0.0%

ゼミナール	20Y	必修	10	85.0	3	30.0%	6	60.0%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
体育講義	21Y	選択必修	96	71.9	5	5.2%	26	27.1%	33	34.4%	30	31.3%	1	1.0%	1	1.0%
体育実技	21Y	選択必修	96	84.3	27	28.1%	48	50.0%	17	17.7%	4	4.2%	0	0.0%	0	0.0%
領域「健康」の指導法	21Y	必修	96	79.3	22	22.9%	26	27.1%	33	34.4%	12	12.5%	3	3.1%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

現在、春休みにのため、オフィスアワーの実施はしていない。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、一部授業の目標を達成できていなかったが、次年度はオンデマンドや遠隔での学習を取り組めるよう工夫し、学生の学習への理解を深めると共に、シラバスに示している各授業の目標を達成できるよう授業構成を再検討していく。
またICTを活用した授業の取り組みを再度計画する。

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏 名		中澤 伸元										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
前年度と今年度の学生の価値観、行動、環境の違いで、考え方捉え方は違ったが、お互いそれぞれの特徴を生かしそれなりの成果を出した。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
前年度で成果の出た、全員の名前を覚えることは今年も続けていく。改善点は、課題を実行に移すしかない。一人一人の理解度をチェックしながら授業の進め方を進めていく。ドリル式を用いる。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
個人個人の個性、を評価しながら、未来志向的考え方でやる気を引き出す。特に保育士としての自覚と必要な技術を身に付けさせる。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
成果としては、全員の名前を覚えたことが学生との距離をちじめることができた。特に一年生は、慣れない学生生活の中で、名前を呼んであげたことで、親しみを持ってもらい、質問、相談などを急激にしてくれるようになった。自分の名前を覚えてもらっているという安心感の中に、信頼関係が生まれていった。繰返しの詳しい説明が学生達には重要である。丁寧に個人的に説明することで理解力が早まった。課題としては、授業で必ず前回授業の理解度の確認をすることでより技術の進化と結びつけていきたい。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
ゼミナール		20Y	4. 0		4. 4		4. 4		4. 4		76. 7分		3. 9				
音楽演習		20Y	3. 9		3. 9		3. 8		4. 0		52. 5分		3. 9				
生活と音楽		21Y	4. 2		4. 2		4. 2		4. 0		23. 3分		4. 1				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ゼミナール		20Y	必修	9	84. 3	0	0. 0%	9	100. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
音楽演習		20Y	選択	8	84. 5	0	0. 0%	8	100. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
生活と音楽		21Y	必修	96	81. 3	4	4. 2%	66	68. 8%	25	26. 0%	1	1. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
オフィスアワーについては、個人的に技術指導を求めてきた場合は、その場で、指導するので効果は必ずあるので、継続する。 アクティブラーニングにおいては卒業研究では、特に発揮された。お互いの考え方の理解思いやりが成果を出した。																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
個人個人の特徴を生かした才能を引き出してあげたい。保育士としてこの学生には何が不足しているのかを見出し、身に付けさせてやること。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書				氏名	中村 浩美		
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）							
歌唱や弾き歌いの授業及び個別レッスンでは学生の必要以上の緊張や抵抗があるため、教員と学生間の距離が少しでも縮められ信頼関係を築くことを念頭に行った。学生の性格によつての指導方法も研究し、練習の仕方を少しずつマスターして、自らの練習レベルを高めていきながら、弾けるようになったと言う事・歌えるようになったと言う事の喜びと、保育者になる気持ちを高める意識に繋げる工夫をした。学生の意見や考え・思いを随時聞くようにもした。結果学生も少しずつ心を開いて考えや思い、疑問点や改善点を話すようになってきた。全員ではないが意欲を感じられ努力する学生も見られた。、例年通り学生要望でのレッスンを授業外で行い、子どもの曲を歌う喜びや、歌唱力の向上を自分達でも感じ取る事ができていた。歌うための筋肉の使い方を始めとした技法や、歌詞の大切さ・イメージ、各曲のポイントなどを丁寧に指導した。4.5人での歌唱と弾き歌いのグループレッスンは、聴いてる他の学生にも大変勉強になっていた。なぜ改善されたか、何が足りなかったなど、みんなで聴きあう意味も理解できていた。何度もレッスンのアポイント取りに来てとても熱心であり、とても大きな成長がみられた事は当人達は当然の事、指導者自身も大変勉強になり今後に生かして研鑽を積みたい。ただ、声量をもととない学生が悩んでいる点に於いて2年間で達成するのは難しいが、声量のみを先行せずとも歌う事の喜びを感じられる研究に取り組みたい。1年生はピアノ初心者や初心者と同等のレベルである学生が3分の2を占めていたため、実習に向けての指導強化が必要である。また、コロナ渦中の影響で人前で歌う事、弾き歌いをする事に羞恥心や抵抗がある学生が殆どであったため、表情や口の開け方、明瞭な歌詞読みのための工夫ある授業展開を研究する。							
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）							
・教員として学生が成長できるための能力や個性を持ち備えている事を常に意識しながら指導する。 ・少しの成長や達成に対しても褒めながら分析・説明をする。 ・保育者になるための高い意識を持たせること、やる気にさせるための指導方法の工夫をする。 ・人の前にでることへの羞恥心を軽減できるための授業展開を行う。 ・言葉や感情や場を考慮して指導する。							
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）							
・コロナ感染予防に非常勤講師の先生方にも協力をして頂き、また、学生にも頻繁に感染要望への諸注意をしながら授業を行った。 ・学生一人ひとりの個性を早く見極め、普段から声掛けを心掛けた。 ・保育者としてだけではなく、社会人としての必要な常識を踏まえながら授業を進行させた。 ・メンタル面強化の励みの言葉かけをする。 ・音楽を奏でられる喜びや楽しみを感じてもらうために、その行事に見合ったディスプレイをしながらいろんなジャンルの選曲の下授業を行った。 ・学生自身が自らの課題点や到達点を発見でき、次のステップに活かせる助言と指導を行った。 ・自信は勇気の積み重ねであり、失敗を恐れず一歩を踏み出すメンタル面からの勇気を促した。							
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に							
常に学生とのコミュニケーションを大切にしてきた。教員と学生間の距離を縮めながらお互いを知り、信頼関係を築く事で極度な緊張感を緩和させながら向き合う授業となった。しかし、一番緊張する人前での歌唱には時間を要するため、特に1年生は授業内で学生自身が羞恥心を持っていても勇気と言う積極性が感じられる授業研究に万全を期したい。ゼミでは特に教員と学生間の溝はなく、目標・到達点に近づくための指導ができたと考える。コロナ渦中でマスクやマウスシールドを着用しての歌唱指導には限界があった。歌唱・声楽指導に必要な不可欠な表情筋・口角アップ・ブレス・体幹を意識しての体の筋肉の使い方で声を出すのだが、声を思い切り出せない事で改善点や良い点を学生自身が理解して継続できる事が大きな問題点であった。また、発声法に準じて楽曲を表現するための歌詞読みも、思いや考えをイメージしながら抑揚を持って発する事がなかなかできず、イメージ力が低下している学生への指導には一層の研究・工夫が必要と考える。学生達は歌う事が好きで、知っている曲は勿論初めての曲にも興味を持って受講していたのは良かった点と言える。それに関しては選曲も良かったと考える。まだ緊張感を抱き控えめになりがちである事や、自分を表現する事が苦手な昨今の学生への声かけと指導には威圧感なく行う事が課題である。また、年々ピアノ初心者が増加しているが、その学生達を始め努力の継続がなく次のピアノレッスン・歌唱・手あそび歌授業を迎える学生が非常に多くいたため、どのような指導が練習継続の強化に繋がるかも課題である。							
学生による授業評価アンケートの結果							
科 目 名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育実習指導Ⅱ	20Y	4.0	4.1	4.2	4.2	48.6分	4.1
保育実習Ⅱ	20Y	4.1	4.1	4.2	4.1	58.2分	4.1
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	20Y	4.2	4.2	4.3	4.3	54.6分	4.2
保育・教職実践演習（幼）	20Y	4.0	4.0	4.1	4.0	52.8分	4.0
ゼミナール	20Y	4.9	4.9	4.9	4.9	130.0分	4.9

音楽演習	20Y	4. 6			4. 8		4. 6		4. 6		116. 3分				4. 6	
保育実習指導Ⅰ	21Y	4. 6			4. 5		4. 5		4. 5		55. 2分				4. 5	
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習指導Ⅱ	20Y	選択	91	95. 4	75	82. 4%	13	14. 3%	2	2. 2%	1	1. 1%	0	0. 0%	0	0. 0%
保育実習Ⅱ	20Y	選択	91	79. 6	14	15. 4%	47	51. 6%	24	26. 4%	2	2. 2%	0	0. 0%	4	4. 4%
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	20Y	選択	91	78. 1	8	8. 8%	41	45. 1%	34	37. 4%	5	5. 5%	1	1. 1%	2	2. 2%
保育・教職実践演習（幼）	20Y	選択	90	89. 7	58	64. 4%	19	21. 1%	9	10. 0%	4	4. 4%	0	0. 0%	0	0. 0%
ゼミナール	20Y	必修	9	83. 7	4	44. 4%	3	33. 3%	2	22. 2%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
音楽演習	20Y	選択	8	85. 6	4	50. 0%	3	37. 5%	1	12. 5%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

音楽を通じて心の悩みを打ち明ける学生を始め、音楽に関係なく悩みや不安を打ち明けて来る学生も多く、それぞれ抱えている悩みに時に教員として、時に人生の先輩として、心からの思いや考え、方法などを時間をかけながら相談にのっている。相談に来た学生も時間をかけて何度も面談をする事で心のつかえが取れたり、悩みを解決しようと言う前向きな考えを持つようになってきたりと、悩みを克服したい一心がその学生の成長に繋がっていると感じている。今後も学生の悩みや相談には時間をかけてじっくり話を聞き、学生の悩みの負担を軽減でき成長できるための指導をしたい。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

- ・ピアノや弾き歌いの不安感が強い学生、自分の声にコンプレックスを持っている学生、何の音からファルセットになるのか等の発声技術に関しても常に不安や自信のなさばかりが目立つ学生への丁寧な指導と、自身の声は個性であり勇気を持って出す事へのメンタル面の強化や、学生自身が各々の課題を知り克服できるための指導を強化したい。
- ・学生一人ひとりの性格を早く把握し、各々の個性を大切に教員と学生間の信頼関係を構築しながら指導したい。
- ・学生自身が自分の良さや課題点、好きな面、嫌いな面と、自分を知る事によって今後の人生にどう繋がるかのディスカッションを設け、その機会教員も自身の人生経験を話しながら課題点を克服できるように、また良い点はさらに伸びるよう指導したい。

令和 3 年 後 期					授業評価報告書					氏名			南 條 恵				
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
分かりやすい資料を作成し、授業がスムーズに進むような準備をおこなう。 話し方、学生への問いかけの仕方などをその都度振り返り、工夫する。 リアクションペーパーの導入を計画しながらも実行することができなかった。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
教科書を細分化したパワーポイントを作成し、スライドに添って授業を展開していく。 オンライン授業では、パワーポイントのスライドに添って音声を入力しYouTubeにアップしていった。毎回、課題を提出することで出席とみなした。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
学生の興味を引き付ける授業という意味では改善点が多いように思う。 今後は学生の「わからない」に細かく答えていけるような授業を作っていきたい。 教科書をかみ砕いて示す必要性を感じている。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象 学生	内容や レベル		教員の 教え方		学生の 学習意欲		学生の 理解度		授業外 学修時間		全体的な 満足度				
保育実習指導Ⅱ		20Y	4. 0		4. 1		4. 2		4. 2		48. 6分		4. 1				
保育実習Ⅱ		20Y	4. 1		4. 1		4. 2		4. 1		58. 2分		4. 1				
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）		20Y	4. 2		4. 2		4. 3		4. 3		54. 6分		4. 2				
保育・教職実践演習（幼）		20Y	4. 0		4. 0		4. 1		4. 0		52. 8分		4. 0				
ゼミナール		20Y	4. 3		4. 2		4. 2		4. 3		80. 0分		4. 2				
子ども家庭支援論		21Y	4. 2		4. 2		4. 2		4. 2		44. 5分		4. 2				
乳児保育Ⅰ		21Y	4. 3		4. 2		4. 2		4. 2		45. 2分		4. 2				
保育実習指導Ⅰ		21Y	4. 6		4. 5		4. 5		4. 5		55. 2分		4. 5				
科 目 名		対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習指導Ⅱ		20Y	選択	91	95. 4	75	82. 4%	13	14. 3%	2	2. 2%	1	1. 1%	0	0. 0%	0	0. 0%
保育実習Ⅱ		20Y	選択	91	79. 6	14	15. 4%	47	51. 6%	24	26. 4%	2	2. 2%	0	0. 0%	4	4. 4%
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）		20Y	選択	91	78. 1	8	8. 8%	41	45. 1%	34	37. 4%	5	5. 5%	1	1. 1%	2	2. 2%
保育・教職実践演習（幼）		20Y	選択	90	89. 7	58	64. 4%	19	21. 1%	9	10. 0%	4	4. 4%	0	0. 0%	0	0. 0%
ゼミナール		20Y	必修	7	81. 4	1	14. 3%	5	71. 4%	1	14. 3%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
子ども家庭支援論		21Y	選択	96	73. 6	2	2. 1%	28	29. 2%	28	29. 2%	37	38. 5%	1	1. 0%	0	0. 0%

乳児保育 I	21Y	選択	96	74.2	5	5.2%	21	21.9%	39	40.6%	31	32.3%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
定期試験前には多くの学生が質問等に訪れたが、普段は、学生自身が主体的に学びに向き合う姿勢が少なく感じられる。																
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																
学生の評価を参考にしながら、分かりやすく理解の深まるような授業準備ををおこない、学生の学ぶ意欲をかきたてていきたい。																

令和3年後期

授業評価報告書

氏名

福井 昭史

1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度は「子どもの歌と伴奏法」と「保育と音楽表現」の2授業科目をはじめ担当した。指導にあたり、学生の技能の差と短時間（1コマ）に6名程度という多い人数の個人指導をするなどの問題点が明らかになった。個々の学生の能力に合った指導をすることである程度の成果は見られたものの、十分とは言えない状況であった。本年度は3班編成から2班となったこともあり、指導体制を再考することとした。

2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

音楽実技（ピアノ演奏）を主とする「子どもの歌と伴奏法」と「保育と音楽表現」の2授業科目については、前年度の課題と、2班編成とすることに伴い、能力別のクラス分けにするなど制度上の改善を行った。個々の能力に合わせた教材の開発を行いながらの指導とすることとした。

講義科目の「生活と音楽」は、本年度2回目の担当であることから、学生の状況とそれに合う学習内容をたえず検討しながら授業を進めることとした。

3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）

授業科目のうち、講義が主となるもの「生活と音楽」においては、毎時間、学習内容の要点と質問事項、感想などを個々に記述させることで、授業内容の定着を図った。演奏実技が主となるもの「子どもの歌と伴奏法」「保育と音楽表現」においては、個々の技能に応じた課題の提示や、編曲など教材を工夫することで、受講生に過度な負担とならないよう配慮した。

4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証）

※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

実技を主とする科目の「子どもの歌と伴奏法」と「保育と音楽表現」は学生の能力に合った編曲による教材を活用することでピアノの経験が少なく技能に課題のある学生も演奏が可能となり達成感が味わえたようである。今年度の授業で開発した教材を用いた実践を通してその検証をすることが次年度の課題である。

講義科目では、学生の実情に合った授業内容の検討と指導方法の改善が課題である。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
生活と音楽	20S	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3分	4.3
生活と音楽	20L	4.0	4.0	4.2	4.0	6.0分	4.0
保育と音楽表現	20Y	4.5	4.6	4.6	4.7	100.9分	4.7
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	20Y	4.2	4.2	4.3	4.3	54.6分	4.2
保育・教職実践演習（幼）	20Y	4.0	4.0	4.1	4.0	52.8分	4.0
子どもの歌と伴奏法	21Y	4.8	4.9	4.2	4.8	79.1分	4.7
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.6	4.5	4.5	4.5	55.2分	4.5

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生活と音楽	20S	選択必修	7	83.9	1	14.3%	4	57.1%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
生活と音楽	20L	選択必修	6	68.3	0	0.0%	4	66.7%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現	20Y	選択	12	81.5	2	16.7%	6	50.0%	4	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	20Y	選択	91	78.1	8	8.8%	41	45.1%	34	37.4%	5	5.5%	1	1.1%	2	2.2%
保育・教職実践演習（幼）	20Y	選択	90	89.7	58	64.4%	19	21.1%	9	10.0%	4	4.4%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの歌と伴奏法	21Y	必修	11	83.5	3	27.3%	7	63.6%	0	0.0%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

ピアノ実技の授業は、その内容が音楽表現であり、学生の主体的な活動が基本となっている。また、授業以外の時間に読譜についてや演奏方法を質問に来る学生が多数見られた。
「生活と音楽」では、音楽創作を授業内容に加えたことで学生の創造的な活動を取り入れている。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

講義科目では、授業内容と教材、指導方法のさらなる改善を計画している。
実技を主とする科目では、学生のレベルに合った教材の開発と活用、指導方法のさらなる改善を計画している。

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		福井 謙一郎										
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																	
前年度の課題はおおむね達成できたと考えられる。																	
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																	
1. ICTの活用 2. アクティブラーニングの実施																	
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																	
1. 動画撮影やオンデマンド授業内の相互性のある授業づくり 2. 学生同士の情報共有の時間の作成																	
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
全体の評価はおおむね4. 0以上となっており、学生による満足度はそれなりに高いと考えられる。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度										
心理学	20S	4. 7	4. 7	4. 7	4. 7	40. 9分	4. 7										
心理学	20L	4. 4	4. 3	4. 7	4. 6	42. 9分	4. 3										
子どもの理解と援助	20Y	4. 1	4. 1	4. 1	4. 1	44. 3分	4. 0										
保育相談支援	20Y	4. 1	4. 1	4. 2	4. 1	64. 3分	4. 0										
保育実習指導Ⅱ	20Y	4. 0	4. 1	4. 2	4. 2	48. 6分	4. 1										
保育実習Ⅱ	20Y	4. 1	4. 1	4. 2	4. 1	58. 2分	4. 1										
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	20Y	4. 2	4. 2	4. 3	4. 3	54. 6分	4. 2										
保育・教職実践演習（幼）	20Y	4. 0	4. 0	4. 1	4. 0	52. 8分	4. 0										
ゼミナール	20Y	4. 8	4. 8	4. 8	4. 8	70. 0分	4. 8										
保育実習指導Ⅰ	21Y	4. 6	4. 5	4. 5	4. 5	55. 2分	4. 5										
科 目 名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価												
					S		A		B		C		F		W（脱落）		
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	
心理学	20S	選択必修	12	84. 3	0	0. 0%	10	90. 9%	1	9. 1%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	
心理学	20L	選択必修	9	65. 7	0	0. 0%	6	66. 7%	1	11. 1%	0	0. 0%	0	0. 0%	2	22. 2%	
子どもの理解と援助	20Y	選択	91	83. 2	1	1. 1%	81	89. 0%	9	9. 9%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	
保育相談支援	20Y	選択	91	83. 1	3	3. 3%	82	90. 1%	6	6. 6%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	
保育実習指導Ⅱ	20Y	選択	91	95. 4	75	82. 4%	13	14. 3%	2	2. 2%	1	1. 1%	0	0. 0%	0	0. 0%	
保育実習Ⅱ	20Y	選択	91	79. 6	14	15. 4%	47	51. 6%	24	26. 4%	2	2. 2%	0	0. 0%	4	4. 4%	

教育実習（事前・事後指導 1 単位含む）（幼）	20Y	選択	91	78.1	8	8.8%	41	45.1%	34	37.4%	5	5.5%	1	1.1%	2	2.2%
保育・教職実践演習（幼）	20Y	選択	90	89.7	58	64.4%	19	21.1%	9	10.0%	4	4.4%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	20Y	必修	7	91.7	7	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実施した。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		船勢 肇										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
・幅広い教養への関心については、一見関係の無いような題材であっても、幼児教育への関わりに言及すると効果的であった。ただ、卒業後も幅広く学ぶ態度の定着には困難を感じた。 ・文章の改善はみられたが、段落をつける習慣もない学生も多くみられ、基礎的な文法が定着しているとはいいいがたい。その意義づけをより丁寧におこないたい。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
本学の学生は「現場でどんな役に立つのかよくわからないが、いろんなことを勉強しておこう」という意識が弱いようである。しかし、平成26年の中教審をみても短期大学においても教養教育の重要性が確認されている。さらに、保育者には子どもに多様な学びの機会を提供する責任がある。困難が予想されるが、次年度も教養教育の意義を学生に伝える方法をより追求していきたい。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
・より分かりやすく、保育者にとって基礎的教養がどのような場面でおこなわれるのか、具体的に説明するように授業を構成する。 ・文章力は、園内の信頼はもちろん、保護者との信頼関係の構築にも関わるような基礎的な能力であることを繰り返し伝える。文章を書く機会は多く設ける。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
・保育者論は2年次後期にあたるが、就職が近づくほど学生は実学に関心が集中しやすくなる。しかし、それは反面として視野が狭くなる怖れもある。学生は意義を理解しつつも、積極的に取り組むという気持ちにはなりにくいようだった。 ・文章の体裁については向上しているようである。保護者との信頼関係構築の一環としても、文章力が求められることは繰り返し伝えていく。特に、メールの体裁については、あきらかに成果がみられた。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
保育者論		20Y	3.7		3.6		3.9		3.8		57.5分		3.7				
保育実習指導Ⅱ		20Y	4.0		4.1		4.2		4.2		48.6分		4.1				
保育実習Ⅱ		20Y	4.1		4.1		4.2		4.1		58.2分		4.1				
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）		20Y	4.2		4.2		4.3		4.3		54.6分		4.2				
保育・教職実践演習（幼）		20Y	4.0		4.0		4.1		4.0		52.8分		4.0				
ゼミナール		20Y	3.0		3.7		4.7		4.3		150.0分		4.3				
領域「言葉」の指導法		21Y	4.3		4.2		4.3		4.3		59.4分		4.3				
保育実習指導Ⅰ		21Y	4.6		4.5		4.5		4.5		55.2分		4.5				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育者論		20Y	選択	90	78.9	17	18.9%	51	56.7%	13	14.4%	8	8.9%	1	1.1%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ		20Y	選択	91	95.4	75	82.4%	13	14.3%	2	2.2%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ		20Y	選択	91	79.6	14	15.4%	47	51.6%	24	26.4%	2	2.2%	0	0.0%	4	4.4%
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）		20Y	選択	91	78.1	8	8.8%	41	45.1%	34	37.4%	5	5.5%	1	1.1%	2	2.2%
保育・教職実践演習（幼）		20Y	選択	90	89.7	58	64.4%	19	21.1%	9	10.0%	4	4.4%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール		20Y	必修	3	76.7	1	33.3%	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%

領域「言葉」の指導法	21Y	必修	96	72.1	11	11.5%	29	30.2%	25	26.0%	31	32.3%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
・レポートの提出、1年生と2年生の交流会、部分保育の発表、調べ学習などをおこなった。とくに交流会についてはコロナの制約があり、大幅な制約を設けざるを得なかった。 ・オフィスアワーの時間を超えて、学生に対応した。																
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																
・短期大学にも市民教育の責任が求められていることを念頭に、くわえて保育者にとって重要な資質について、その意義を認識してもらいながら取り組む。 ・文章力についても、懇切な添削をおこないながら、実践的な場面も想定して課題を検討する。																

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		松尾 公則									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
ヒトと生物では例年通り講義一辺倒にならないように工夫した。講義内容に合わせた実物や模型、関連するDVDなどを持参し学生の緊張が継続するように努めた。講義内容も実際に幼稚園や保育園で役に立つ内容としたため、受講態度もよかった。 卒研では、例年通りに十分な活動が実施できた。卒研報告集や発表会も例年以上の出来栄であった。来年度からゼミナールという形で1単位となるため内容の生鮮が必要であると思う。。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
ヒトと生物では例年通り講義一辺倒にならないように工夫した。講義内容に合わせた実物や模型、関連するDVDなどを持参し学生の緊張が継続するように努めた。講義内容も実際に幼稚園や保育園で役に立つ内容とした。コロナ禍の中、対面授業ができない場合のことも多少考えに入れておいた。 ゼミナールでは、前年度より1単位少なくなったことやコロナ禍での活動のため、効率よく実施するための項目選別や内容選別を考えた。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
ヒトと生物では、学生の学びたい内容を聞き、それを中心に講義を実施した。講義形式ではプリント、実物、模型、DVDなどの工夫も例年通りに実施できたと思う。 ゼミナールでは、例年実施している活動だけでなく、多くのことをゼミ生に選択させることで向上心を持たせるように努めて実施した。多少十分ではない所もあったが、何とかゼミナール報告集や発表会をやり遂げることができた。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
人と生物では、例年通りに十分に成果を上げることができたと思う。ただ、コロナ禍の中、休講となった時間があつたため、3項目ほど実施できなかったのが残念であった。 ゼミナールは、今年から1単位となったため効率よく実施することを心掛けた。しかし、コロナ禍による休講もあつたので、予定通りの活動はできなかったが、最低限の成果は上げることができた。来年度も同様な事態が考えられるので、より効率的に活動しゼミとしての成果をあげていきたい。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科 目 名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度					
ヒトと生物	20Y	4.8	4.8		4.8		4.8		40.0分		4.8					
ゼミナール	20Y	4.8	4.8		4.8		4.8		35.0分		4.8					
科 目 名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ヒトと生物	20Y	選択 必修	8	95.0	7	87.5%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	20Y	必修	8	93.5	8	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
特記事項なし																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
コロナ禍の講義やゼミナールは継続していくと思われるので、より効率的な展開を工夫していきたい。																

令和 3 年 後 期					授業評価報告書					氏名		本村 弥寿子					
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
コロナウイルス感染防止のため、予定していた学修内容に制限が生まれた。制限がある中でも必要な学びが得られるような授業づくりが課題である。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
演習やグループワークを取り入れることで学生自身が自ら考えたり行動したりする機会を確保する。その際、活動の場を教室内にとどめず戸外や他教室を確保し、密を避けながら自身及びグループの学びを深められる状況をつくる。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
演習やグループ活動に取り組む際、活動の場を1つの教室にとどめず、戸外、図書館、自然遊び室等、各自及び各グループが密を避けながらそれぞれの課題にじっくり取り組める環境を用意した。カリキュラム論においては参考となる指導案を用意し、さらに参考書を紹介して、各自が自分で調べながら書き上げられるよう配慮した。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
「環境」「表現」の指導法では、グループで考えた保育実践の発表もできなかったが、時間をかけて保育案を考えたり教材を作成したりすることで保育の実際を理解できたようである。また、カリキュラム論でも時間をかけ大変であったと感想を漏らすものが多かったが、やり遂げた満足感を味わい学外実習への意欲につながっている。満足度が4.3や4.4は、自分でしっかり取り組めた達成感から来ているものと考えられる。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
保育実習指導Ⅱ		20Y	4.0		4.1		4.2		4.2		48.6分		4.1				
保育実習Ⅱ		20Y	4.1		4.1		4.2		4.1		58.2分		4.1				
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）		20Y	4.2		4.2		4.3		4.3		54.6分		4.2				
保育・教職実践演習（幼）		20Y	4.0		4.0		4.1		4.0		52.8分		4.0				
ゼミナール		20Y	4.5		4.5		4.6		4.6		60.0分		4.5				
領域「環境」の指導法		21Y	4.4		4.4		4.3		4.3		61.3分		4.4				
領域「表現」の指導法		21Y	4.4		4.4		4.4		4.3		56.7分		4.3				
カリキュラム論		21Y	4.4		4.5		4.4		4.4		95.5分		4.4				
保育実習指導Ⅰ		21Y	4.6		4.5		4.5		4.5		55.2分		4.5				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習指導Ⅱ		20Y	選択	91	95.4	75	82.4%	13	14.3%	2	2.2%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ		20Y	選択	91	79.6	14	15.4%	47	51.6%	24	26.4%	2	2.2%	0	0.0%	4	4.4%
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）		20Y	選択	91	78.1	8	8.8%	41	45.1%	34	37.4%	5	5.5%	1	1.1%	2	2.2%
保育・教職実践演習（幼）		20Y	選択	90	89.7	58	64.4%	19	21.1%	9	10.0%	4	4.4%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール		20Y	必修	11	91.2	8	72.7%	3	27.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

領域「環境」の指導法	21Y	必修	96	78.0	9	9.4%	31	32.3%	39	40.6%	17	17.7%	0	0.0%	0	0.0%
領域「表現」の指導法	21Y	必修	96	78.4	9	9.4%	39	40.6%	35	36.5%	13	13.5%	0	0.0%	0	0.0%
カリキュラム論	21Y	選択	96	77.7	21	21.9%	22	22.9%	31	32.3%	21	21.9%	1	1.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

全てのグループ活動で、学生自らが課題を設け自分たちで調査や作成を進めていくアクティブラーニングの形態をとった。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

授業内に実践の機会をできるだけ盛り込み、学生が自ら考え行動する授業方法を模索したい。

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏 名		山 中 慶 子										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
・製作の進度において、個々でばらつきがあるため、時間の使い方を工夫すること。 ・グループワークを行う際、能力が偏らないようなグループ編成を取り入れること。 上記が前年度の目標であった。2年目の授業であり、個々の製作進度差による対応はスムーズに行えたと考える。また、グループ編成は事前にチェックし、学籍番号で伝えたため、能力の差があまりでないようなグループ編成が行えたと考える。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
・学生の理解度があがるような資料・教材の工夫を行う。 ・保育実践で活かせるような課題選び。 前年の授業を活かし、より学生の興味を引くような教材選びを行った。また、図工室壁面の掲示によって、学生の製作への意識が向上したと考えられた。2年次の模擬保育は、前年の経験を活かし充実したものとなったが、グループとしてではなく学生一人一人のスキルアップにつなげることが今後の課題である。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
今年度は、コロナ禍における授業形を考えなければならない時期が長かったため、演習の仕方に工夫が必要であった。アクリル板の設置・2グループに教室を分けて演習を行うなどの授業形態をとった。 今後、オンデマンドで実施できる回などを意識的に作る必要がある。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
前年度、今年度で図工・美術に対する苦手意識の調査を行い、その結果を授業に反映できたと考える。個人での製作、グループでの製作、幼児との造形活動について、援助の仕方、など、より広い範囲で学びを得られるような授業構成を考えることが今後の課題である。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
保育実習指導Ⅱ		20Y	4.0		4.1		4.2		4.2		48.6分		4.1				
保育実習Ⅱ		20Y	4.1		4.1		4.2		4.1		58.2分		4.1				
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）		20Y	4.2		4.2		4.3		4.3		54.6分		4.2				
ゼミナール		20Y	4.5		4.5		4.8		4.6		33.8分		4.5				
子どもの絵と製作（指導法）		21Y	4.5		4.6		4.5		4.5		78.3分		4.4				
保育実習指導Ⅰ		21Y	4.6		4.5		4.5		4.5		55.2分		4.5				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習指導Ⅱ		20Y	選択	91	95.4	75	82.4%	13	14.3%	2	2.2%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ		20Y	選択	91	79.6	14	15.4%	47	51.6%	24	26.4%	2	2.2%	0	0.0%	4	4.4%
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）		20Y	選択	91	78.1	8	8.8%	41	45.1%	34	37.4%	5	5.5%	1	1.1%	2	2.2%
ゼミナール		20Y	必修	9	85.6	3	33.3%	6	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	

1年後期、2年前期の授業では、グループワークを多く取り入れることで、他者の意見を聞いたり協力しあうことによって学びを深める様子が見えてきた。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

今までは必修だった科目が保育士選択科目となることで、学ぶ意欲のある学生に向けて内容を変えたり、より実践に活かせる課題を取り入れていきたいと考える。

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏 名		池田 光壺										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
授業評価アンケートおよび定期試験の結果から、学生の理解度ならびに授業環境は概ね良好であると思われた。また、学修のポイントが押さえられていて確実に知識が定着したと推察された。しかしながら、一部学生の知識の定着が不十分であり、加えて授業外の学修時間が少ないので、次年度は充実した学修活動を促したい。以上のことから、良い点は現状を維持しつつ、知識の定着が不十分である学生を早い段階で認知し、学修のフォローを充実させていくことが次年度に向けての課題である。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
今年度の目標：昨年度の目標は概ね達成されたと考えられるが、再試験該当者が2名いたので十分とは言い難い。今年度は再試験の対象者がでないように、適時、学生の学修の進捗状況を確認するとともに、速やかにフィードバックする。 改善計画：適時小テストを実施して習熟度を確認するとともに、速やかなフィードバックを行う。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
毎回ではないが、前回授業内容に関する確認テストを実施し、学生の学修到達度を確認した。確認テストの直後に内容の解説を行った。また、学修内容の定着が不十分な学生に対しては適時直接やり取りをして理解度を確認しながら確実に知識が定着するように努めた。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
今年度の成績分布および授業評価アンケートの結果、若干数値の差はあるものの昨年と同様に学生の理解度と授業環境は概ね良好であると思われる。また、殆どの学生において学修のポイントが押さえられており確実に知識が定着したと推察される。しかしながら、一部学生の知識の定着が不十分であり2名の再試験対象者がいた。加えて授業外の学修時間が昨年よりもさらに短くなっていることが課題としてあげられる。以上のことから、良い点は現状を維持しつつ、知識の定着が不十分である学生に対するフォローも引き続き継続するとともに授業外の学修を促す。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
食品学Ⅱ（食品の機能）		21S	4. 5		4. 5		4. 1		4. 2		19. 6分		4. 3				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
食品学Ⅱ（食品の機能）		21S	選択	23	81. 8	14	60. 9%	2	8. 7%	2	8. 7%	4	17. 4%	0	0. 0%	1	4. 3%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
アクティブラーニング（以下ALと略記）は「具体的・直接的コミュニケーション」であると捉えている。したがって手法にこだわらず、学生と教員間で具体的・直接的コミュニケーションがなされているのであれば全てそれはALであると考えている。担当授業では、常に双方向型（学生⇄教員）の展開を意識して授業を実施した。そのことによって、学生の理解度などを常にチェックしながら授業進行ができた。オフィスアワーは実施していないが、質問等への対応は授業中に行った。																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
次年度の目標：再試験対象者をできるかぎり出さない。授業時間外の学修時間を適切に増やす。 改善計画：良い点は現状を維持しつつ、知識の定着が不十分である学生に対するフォローを適時行うとともに、各自の理解度に応じて適切に授業外の学修時間を確保する。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		井上 靖久										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
前年度は報告者が電気喉頭による発声による授業への初取り組みであり、不安の中で行ったが、講義ノートを準備したことで、ある程度成果が得られたと考えている。しかし、同時に前年度の学生は授業への取り組みが例年以上に熱心であり、これに助けられたことも多かったと感じている。今年度に向けては、学生の質に頼らなくても、効率的な講義ノートを準備知っていきたい。また、今年度不十分と思われた実習授業との関連付けを意識して行いたい。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
今年度は電気喉頭による授業にも慣れており、ある程度の学生理解にも予想がつくようになってきている。一方では今年度の学生は前年度程の強い学習意欲に頼ることは出来ないので、より充実したこうぎの一が必要である。また、過大な要求よりも実習授業に確実につながる堅実な授業運営を心掛けたい。また、最終到達目標も重点に絞って簡潔な授業とすることを心掛けたい。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
今年度の学生の満足度を常時確認しながら、かつ今年度の学生の意欲や理解度を出来るだけ把握しながら、重点的な項目を強調して学習内容を高度にする部分と、場合によっては難易度を下げる工夫もしながら柔軟に授業を進めた。また各授業ごとに重点テーマをはっきりと挙げて学生の理解の助けとした。また、報告者がほとんどこれまでは意識してこなかった、学生の家庭での予習や復習の助けになることも意識した。最も留意することは健康維持、疾病予防などに関して詰込み型ではなくて、思考する習慣の大切さを伝えたいと思っている。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
前年度に比して、大変残念ながらアンケート項目全体に評価が低くなっている。原因を単純化することは困難であると思われるが、講義の内容やレベル、話し方などの教え方、学生の学習意欲をいかに高めるか、等改善点は多いと思われ、大いに反省しなければならない。何より学生の理解度に対する自己評価が今一つなのは大変気にかかる所であり、報告者の態度によるものか、学生の理解そのものなのか、あるいはその他によるものかは重要であり、今後課題である。また、自宅の学習時間も下がっており、今年度の学生だけのことなのか、どうかも検討しなければならない。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
解剖生理学		21S	3.8		3.8		3.5		3.6		33.9分		3.7				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
解剖生理学		21S	選択	23	74.7	0	0.0%	10	43.5%	8	34.8%	5	21.7%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
科目全体として重要事項を指摘した上で、各自レポート形式でまとめることを要求した。この時教科書やノートを単に写すのではなくて、理解したうえで、自らの考えを述べる努力によって何事にも根拠による思考態度が身につくことを願った。																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
次年度は前年よりアンケート結果が振るわなかったことを問題として、いかに改善するかに注力したい。しかし、年毎の学生の特性を掴んでそれに合わせて対応することは容易ではないが、兎も角教育する側も受ける側も気持ちよく且つ効果的な授業となるよう工夫していきたい。今年度以上に講義ノートを抜かりないものに充実させ、身近な興味ある人体の健康や病気のはなしで引き付けて行きたい。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		鵜川 佐由美										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
昨年度の授業評価報告書では、自分自身の演奏レベル到達までかかる時間を日頃の練習・試験での結果から計画を立てることが課題にあがっていた。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
①基礎理論を理解し、読譜することができるようになる。 ②保育現場の必要な生活の曲・幼児のうたの弾き歌いを習得する。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
ピアノ演奏指導…子どもの歌と伴奏を個々に合うレベルに編曲し、奏法指導。 余裕がある学生には個々のレベルに合う楽曲の指導。 歌唱指導…どう体を使って歌うか、伴奏とうたのバランスを指導する。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
アンケート結果より言えることは、前期とあまり変化はなく、特に問題はないと思われる。4点台から下がらないように学生の気持ちを組みとりながらこれからも望みたい。2年生の授業外学修時間が前期より減ったのは、実習などの影響もあったかもしれない。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
保育と音楽表現		20Y	4. 5		4. 5		4. 6		4. 4		67. 5分		4. 5				
子どもの歌と伴奏法		21Y	4. 3		4. 1		4. 1		4. 4		105. 0分		4. 2				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現		20Y	選択	8	77. 9	0	0. 0%	3	37. 5%	5	62. 5%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
子どもの歌と伴奏法		21Y	必修	10	84. 8	2	20. 0%	6	60. 0%	2	20. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
授業後に時間内にできなかった部分指導やリズムや運指を指導した。																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
今年から一週ごとのレッスン制に変更されたので、1人にかかる時間が昨年度から2倍に増えた。その分より深い奏法指導、表現力の指導をしたい。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		内田 誠										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
自主的に練習できるよう意識付けと言葉かけに工夫したところ、驚くほど練習に励む学生もいた。 1人でも多くの学生に楽しく取り組んでもらえる様、更なる工夫が必要。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
自ら進んでピアノの練習に取り組める選曲、カリキュラムを目指す。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
一人一人のレベルに応じた対応。また、学生同士の演奏を聴き合う事でやる気を引き出す。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
年々満足度が低下しているようです。細かなケア・言葉かけで満足度を向上させる必要がある。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
保育と音楽表現		20Y	3. 7		4. 0		4. 1		4. 1		90. 0分		3. 7				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現		20Y	選択	9	78. 1	1	11. 1%	2	22. 2%	6	66. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
なし																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
理解していない者を一人も出さないようフォローにも力をそそぐ																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏 名		太田 久美子										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
昨年度の授業評価報告書では、基本的な方針はそのままとしつつ、より学生にわかりやすい講義を心がけることが課題にあがっていた。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
(1) 日本国憲法や法律に関心をもち、身近なものとして意欲的に学習することを促す。 (2) 日本国憲法の意義・概要について学び、市民として必要な日本国憲法に関する基本的理解を修得する。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
(1) 昨年度同様、基本的には、毎回、講義の際にレジュメを配布し、講義形式で授業を進めた。もっとも、事前課題を課し、その内容を発表してもらったり、なるべく学生への問いかけを多くして、学生自身に考えてもらう機会を設けるよう工夫した。 (2) 日本国憲法の問題について興味を持って考えてもらうため、関連する映画を観てもらおう等工夫した。もっとも、講義日程の都合や、各項目の説明に割く時間との割合等に鑑み、映画の本数は従前の2本に戻した。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
成績分布をみると、昨年に比べ、C評価が増え、S評価、A評価及びB評価の学生数が減少しており、非常に残念な結果となった（なお、定期試験の問題の難易度に極端な変化があったとは考えておらず、評価方法も例年と大差ない）。 講義中の学生の反応は例年よりも良かったと感じていたため、講義中の学生の反応と理解度とは比例しないものと考えざるを得ず、次年度、学生の理解度をどのようにして推し量るべきか、悩ましいと感じている。 アンケート結果については、数値自体は平均値を下回るものがないものの、履修者の9割以上を占める20Yクラスにおいて全体的な満足度が低いため、次年度以降、さらに工夫を重ねる所存である。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
日本国憲法		20S	3.8		3.8		4.0		3.3		97.5分		4.0				
日本国憲法		20L	5.0		4.0		4.0		4.0		60.0分		4.0				
日本国憲法		20Y	3.2		3.3		3.7		3.0		55.7分		3.2				
日本国憲法（1年次開講）		21L	5.0		5.0		5.0		4.0		60.0分		5.0				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本国憲法		20S	選択必修	4	71.3	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	75.0%	0	0.0%	0	0.0%
日本国憲法		20L	選択必修	2	70.5	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
日本国憲法		20Y	選択必修	91	62.3	0	0.0%	0	0.0%	8	8.8%	83	91.2%	0	0.0%	0	0.0%
日本国憲法（1年次開講）		21L	選択必修	1	60.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
講義後にオフィスアワーを設けており、講義内容に関する質問を受ける機会も複数あった。 昨年までに比べ、積極的に質問してくれる学生が複数いたことは喜ばしいことと考えている。																	

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

次年度も引き続き、以下を目標として講義を行う。

- (1) 日本国憲法や法律に関心をもち、身近なものとして意欲的に学習することを促す。
- (2) 日本国憲法の意義・概要について学び、市民として必要な日本国憲法に関する基本的理解を修得する。

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏 名		大野 陽子										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
限られたレッスン時間の中で、いかに学生とコミュニケーションを取りながら、歌とピアノの両面において表現力を身につけさせるかということが課題にあがっていた。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
①基礎理論を理解し、読譜できるようになる。 ②保育現場での必要な曲(生活の歌)、幼児の弾き歌いを習得する。 ③簡易伴奏法、コード奏法の習得 ④表現豊かに明るく楽しく歌えるようになる。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
①新しい曲(歌)は、まず講師の伴奏のもとで共に歌い、曲の雰囲気・情景・歌詞のもつ意味などを、自然に感覚的に覚えさせるようにした。 ②曲のイメージがある程度つかめた段階で、学生自身に実際弾いてもらい一人一人の進み具合に応じて、細かいアドバイスと指導を心掛けた。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
アンケートの結果を見るかぎり、全体としては特に問題はないと思うが、やはり中には、実技に苦戦し思い通りの成果が現れない学生もいた。今年は特に、コロナ禍において、通常の授業ができなかった事も要因の一つとして挙げられる。学生一人一人の性格や能力に、より添った指導の在り方というものを私自身これからさらに考えていきたい。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
保育と音楽表現		20Y	4. 4		4. 6		4. 4		4. 4		83. 3分		4. 3				
子どもの歌と伴奏法		21Y	4. 9		4. 8		4. 5		4. 5		75. 0分		4. 8				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現		20Y	選択	9	77. 4	0	0. 0%	5	55. 6%	4	44. 4%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
子どもの歌と伴奏法		21Y	必修	8	81. 1	1	12. 5%	5	62. 5%	2	25. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
実習園の課題曲についての質問があり、音源を録音したものを動画で送り、それを見て確認するよう(ピアノを弾くときの手の形・正しい音など)アドバイスした。																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
コロナ禍の今だからこそできる音楽のレッスンというものを模索していきたい。ピアノを弾く、歌を歌うといった技術習得に加え、学生一人一人の“気持ち”を大切にして普段の声掛けや、寄り添った指導を心がけていきたい。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏 名		大町 福美									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
生け込みを近くで見るとし、気づいた点など発言しやすい雰囲気を作るように工夫した。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
主体的に学びたいと思う授業																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
一定の距離を置いて着席。 生け込み、DVD鑑賞。 レポート提出後、早めに添削し返却。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
学生による授業評価アンケートは特に問題ないと思う。 少人数の為 1 人 1 人が真剣にまた主体的に授業に望んでくださった。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科 目 名	対象 学生	内容や レベル		教員の 教え方		学生の 学習意欲		学生の 理解度		授業外 学修時間		全体的な 満足度				
日本文化概論	20S	4. 4		4. 6		4. 6		4. 4		30. 0分		4. 6				
日本文化概論	21L	4. 4		4. 4		4. 4		4. 4		24. 0分		4. 5				
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本文化概論	20S	選択 必修	7	91. 6	6	85. 7%	1	14. 3%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
日本文化概論	21L	選択 必修	10	87. 2	6	60. 0%	3	30. 0%	1	10. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
生け込みを近くで見えていただき、教授の先生方の技また疑問点を吸い上げ答えるようにした。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) 1 人 1 人のレポートに丁寧に目を通し、返却する。 (2) 生け込みを通して、生ける楽しさを実感していただく。																

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		尾崎 好子									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
昨年度の授業評価報告書では、オンライン講義の場合は、オンラインでもしっかり講義に取り組めるよう撮影方法の工夫を行いたい、また、対面講義ができれば、質問等を積極的に受け付け、全員が同じ理解度になるよう対応したい、としていた。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) オンラインでも伝わりやすい板書と声量を工夫する。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
今年度も新型コロナウイルスの影響でオンライン講義となり、多くのスタッフの皆様や先生方にお手数をおかけしたことを申し訳なく、1日も早い収束を願わずにはいられない。 オンライン講義だと受講生一人ひとりの理解度を把握することが難しいが、理解度に個人差があることを考慮しつつ講義を行うことを心がけた。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
全体的な満足度が高く、試験の結果も理解度が高かったので授業内容や方法に大きな問題点はないと思われる。アンケートで多く頂いた「オンラインでも分かりやすいけれど、来年度前期授業は対面講義を希望します」という声を多く頂いているので、対面講義が実現できれば良いと願う。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科 目 名	対象学生	内容やレベル		教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度					
医療事務論	21L	4.8		4.7	4.6		4.5		40.0分		4.4					
科 目 名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
医療事務論	21L	選択	18	97.3	18	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
質問があってもオンラインのため気軽に質問に来ることが難しかった学生もいたと思う。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) 全体的に学ぶ意欲の高い受講生が揃っているので、高い目標を持って取り組みたい受講生と、ゆっくりしたペースが合っている受講生両方の希望がかなえられるような講義を行うことができるように課題など準備をしたい。																

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		北山 千代子									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
前年度の先生の指導内容を踏襲し、必要な分だけ手書きの資料を準備したが、学生が授業に対し、興味・関心を示し真剣に取り組んでくれた。提出物もほとんど全員提出し、文字を書く姿勢が向上したと思う。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
・DVDを講義に入れる。(前年度の先生の書学・書道史が分かりやすく解説されているので) ・丁寧な板書をして、理解しやすい講義を実施する。 ・興味・関心を持ってもらうよう工夫する。 ・演習(実技)の際、数多く添削をし、褒めて伸ばすようにする。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
・天声人語603文字を去年と引き続き丁寧に書写させる。→語彙・語句、文体について説明し理解させた。(難しい語彙・語句、筆順については板書して説明した。) ・書学・書道史等については、DVDを使用した。 ・ペン字・毛筆、小字については、手本を作成し、徹底して真似させ上達を見た。添削の際、褒めて指導することに留意した。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
学生が真面目で真剣に授業に取り組んでくれ、とてもやりがいがありました。最初の頃とすると、字がきれいになり、嬉しく思いました。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科 目 名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
生活と書	20S	4.5	4.8	4.8	4.8	75.0分	4.7									
生活と書	20L	4.7	4.6	4.7	4.7	68.6分	4.7									
生活と書(1年次開講)	21L	4.7	5.0	4.9	4.9	72.9分	4.7									
科 目 名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生活と書	20S	選択必修	7	84.5	1	16.7%	4	66.7%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
生活と書	20L	選択必修	15	85.0	5	33.3%	7	46.7%	3	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
生活と書(1年次開講)	21L	選択必修	7	79.1	1	14.3%	1	14.3%	5	71.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
時間内にて指導は完了させるようにする。特になし。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
今年度の授業方法を踏襲しつつ、もう少し個々の添削時間を増やしたい。																

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏 名		金 英 泰										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
本科目の授業・教育目標は、アンケートの結果および授業成績からも、おおむね到達していると思われる。小テストなどを取り入れ、各自の習得レベルを確認しながら、授業を展開する。 ハングルの教科書の内容を各自で声を出して読ませている。一方的に教員の発音を聴くのではなく、学生自らも実際に発音し、教員のアドバイスをその都度、受けている。このような参加型学びが効果を上げていると思われる。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
①授業中に小テストやグループ学習等を導入し、主体的な学びを取り入れる。 ②文化体験として、韓国の料理作りを体験する。文化祭等で韓国料理を創作・発表など参加型体験を行う。 ③学生の参加型授業をさらに充実させ、ひとりひとりにきめ細やかな指導を行う。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
語学の授業であることから、読み、書き、話す、聞く、の基本的なリテラシーに重点を置きながらも、楽しく、親しみやすいように、韓国音楽、映画、伝統文化などもとりいれる。また、学生が主体的に調べて発表する形式もとり入れていく。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
学生による授業評価によるアンケートの平均では、内容やレベル4.1、教員の教え方3.9、学生の学習意欲3.8、学生の理解度3.7、全体的な満足度4.0であった。 語学においては、各人の関心度によって、科目の到達目標に対する到達度が違っている。授業の目標に向かって、学生全員が努力できるような教育環境を整える。今後も、導入段階から、各人の理解度を確認しながら、授業を展開していく。授業の具体的工夫としては、テキストの内容について十分に理解できるよう、教員が大きな声を出しながら学生に読み聞かせている。さらに、すぐに学生に復唱させ、正しいハングルの発音ができるまで確認している。また、その都度、大きな文字を板書し、ハングルの発音構造を説明している。今後もこのようにきめ細やかに授業を行っていく。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
韓国語		21S	3.9		3.9		3.5		3.6		31.4分		3.9				
韓国語		21L	4.3		3.9		4.1		3.8		33.3分		4.1				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
韓国語		21S	選択必修	21	94.6	18	85.7%	3	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
韓国語		21L	選択必修	19	98.6	19	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
アクティブラーニングとしては、一方的に教えるのではなく、学生の参加型の授業を展開している。具体的には、韓国語の発声を自ら行わせ、正確にできるまで、練習をさせている。また、インターネットを使った教員とのやり取り、課題提出を必須としている。オフィスアワーとしては、毎回の授業後に設定している。授業について、学生から質問等があればその場で詳しく説明し、一緒に演習している。																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
①すべての学生が理解できるように、基本的な事項を重点的に授業に取り入れる。 ②初期段階から、授業中に小テストを導入する。 ③グループ学習等を導入し、主体的な学びを取り入れる、課題発表など。 ④文化体験として、韓国の料理作りなど、参加型を体験する。（文化祭等で韓国料理を創作・発表）																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		久林 康子									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
昨年度の授業評価報告書では、15回 (時間) という短い枠の中で振り返りの時間が十分取れなかったことが課題に上がっていた。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) 学生が主体的に考え表現できるように様々な角度から情報を提供し、講義の週末には振り合える時間を設ける。 (2) 学生自身が自己評価、及び相互評価できる場面を設定する。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
(1) 日本語の正しい表現方法を意見文、依頼文等の作成をととして育成し、語彙力を付けるため小テストなどを取り入れた。 (2) プレゼンテーションによる発表の機会を設け、学生相互の意見を交換し共有させた。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
今年度の学生は出席率も高く、授業に参加する態度も概ね良好であった。ペア学習の場面では協力し合う姿も多く見られまとまりを感じた。ただ、中には学ぶ意欲が低い学生も数人おり、そのような学生への働きかけをどうするか課題が残った。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科 目 名	対象学生	内容やレベル			教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度				
日本語表現	21L	4.7			4.8		4.8		4.7		60.0分	4.7				
科 目 名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本語表現	21L	必修	24	80.5	2	8.3%	10	41.7%	10	41.7%	2	8.3%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
プレゼンテーションのテーマ設定や作成までの作業時には、学生の考えを尊重しながら適宜指導を行った。また、大学図書館や公共図書館を積極的に利用し、インターネット等の情報収集に偏らないように指導し、読書にかける時間を確保するよう指導を行った。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) 学生の実態や課題を十分に把握しながら、どのような力をつけていくか考えながら講義に使用する資料やワークシート類の工夫をする。 (2) 学ぶ意欲の低い学生への対応を考える。																

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		古賀 英俊									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
解剖学と生理学は密接な関係にあり、基礎医学を履修されていない学生の皆さんには、短期間の講義では十分な理解は得難いと考えられる。そのためスポーツやサプリメントなど、日常生活のなかで遭遇する医学的問題、スポーツドクターや臨床医として経験してきた実例を、様々な角度から取り上げた。学生の皆さんが、健康科学に身近なものとして、これからの実社会で役立つ知識を習得できるよう授業を行った。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) 日ごろから疑問に思っているなげないことが、運動生理学の、医学的な理解を深める重要なヒントを有している。日常の、身近な例を取り上げ、栄養学と運動生理学の理解が深まるよう、工夫を凝らす。 (2) スライドの枚数を減らし、学生さんの意見も取り入れながら、一方的でない、ゆっくりした授業の進行に努める。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
(1) パワーポイントを使用したスライドで授業を進行させていく。 (2) できるだけわかりやすく、図解しながら進めていく。 (3) 配布資料は語句が主体だったことから、重要な部分は配布資料にも図表を取り入れる。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
わかりやすかったと、わかりにくかったの相反する評価があり、どの点がわかりにくかったのか、再点検しながら資料の改訂を行っていく。授業内容に関する関心度も、成績分布に現れているのではと考えられる。スポーツ栄養士を目指す方には、運動生理学、スポーツ選手の抱える貧血などの問題点、競技能力向上のための栄養学は重要であるため、さらに関心度を含めるよう、授業内容に工夫を凝らしていく。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科 目 名	対象学生	内容やレベル			教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度			
運動生理学	20S	4. 2			4. 1		4. 1		4. 0		32. 7分		4. 0			
科 目 名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
運動生理学	20S	選択	23	73. 9	3	13. 6%	7	31. 8%	3	13. 6%	9	40. 9%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
実施なし																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) 講義内容のアウトラインを前もって提示し、次回の講義で、どのようなことを取り上げて欲しいかを聞きながら、講義内容を微調整していきたい。 (2) 学ぶ意欲の低い学生の対応については、今一度、運動生理学の知識がいかに重要であるかを、分かってもらえるような授業内容にしていきたい。																

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		齋藤 充子										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
今年度からの担当であるため、昨年度との関連は省略。しかし、本年度の授業においては、子どもの健康・安全と子どもを取り巻く保育環境、健全な成長と発達を支援するための保健活動、保育者に必要とされる子どもの発育・健康に関するトピックについて理解させ、修得させる授業展開を課題とした。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
(1) 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助、及び、衛生管理・安全管理について具体的に説明できるよう授業の重点箇所を意識させる。 (2) 子どもの日頃の体調不良への対処、緊急時の対応について、実践力が修得できるようPPTやデモンストレーションなどを取り入れることにより、学生自身が考えて行動に移す機会を増やす。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
(1) 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について実践に結び付けて考え行動に移せるよう、衛生管理及び安全管理について例を挙げ具体的に示した。 (2) 子どもの体調不良への対処、また、緊急時の対応についての理解を深めるため、事例に基づく検討（G討議）の機会を取り入れ、子どもの発育や健康に係る今日的な諸問題について、ディスカッション及びグループワークを行った。 (3) 子どもの健康や安全を含めた保健活動に関する計画と評価について、また、家庭・地域・関連専門機関との連携の在り方及び組織的取り組みについて課題レポートを課し、授業の中で各課題について解説することにより共通理解を図った。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
学生による授業評価アンケートの結果は特に問題ないと思われる。なお、成績分布から、事前に重要点を再度復習したため成績が不可である学生はいなかったものの、期待したほどに成績が伸びなかったのは残念である。また、3回ほど課したレポートからは学習の積み重ねが読み取れ、授業終了時の振り返りアンケートの内容を皆で共有する機会を設けたことが成果につながったものと考ええる。しかし、受講生数が多い場合、物理的に一人一人の学生のニーズに対応することが難しい面も生じ、いかに対応するかが今後の課題である。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
子どもと保健		20Y	3. 8		3. 7		3. 9		3. 9		45. 5分		3. 8				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもと保健		20Y	選択	90	75. 3	5	5. 6%	30	33. 3%	32	35. 6%	23	25. 6%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
毎授業後の振り返りアンケートを活用し学生の疑問・質問に対応した。また、シラバスに沿って次回の授業範囲を周知し、テキストを活用しての予習を促した。																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
専門的知識の修得は保育士には不可欠ではあるが、それを確固たるものにするためにも、その根底にある職業に携わるものとしての社会への貢献・責任・子ども理解・保護者対応等についても学びを通して意識できる授業の展開が必要であると考える。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏 名		堺 蘭										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
前年度より講義内容などほぼ計画通りにできました。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
今迄と同じように会話、文法などを丁寧に説明して、より効果のある講義をしたい。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
毎回実用会話及び長崎の観光名所の中国語訳を紹介したい。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
今までの講義と同じように、中国語のほか中国社会、中国文化などの紹介も取り込んで、授業をすすめます。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度					
中国語		21S	3.0		4.0		3.0		4.0		30.0分	3.0					
中国語		21L	4.0		4.0		4.0		4.0		60.0分	4.0					
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
中国語		21S	選択必修	1	60.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
中国語		21L	選択必修	1	80.0	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
なし																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
今年度同様の授業計画で問題ないと思われる。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏 名		沢 みつ子										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
昨年度の授業評価報告で、ホスピタリティを感じたり論ずることのできる書物や映画作品の鑑賞を、より効果的に用いることを課題として挙げていた。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
1) 幅広い分野の事例の紹介による顧客心理の学習をし、心遣いやサービス精神を意識させる。 2) 知識だけでなく、実際の行動体験を通し、学生の気づきを促す機会を増やす。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
1) 前年度の課題を意識し、授業準備が出来た。部分的ではあるが、「マイフェアレディ」のビデオ鑑賞から表現することの大切さを学び取りいれた。コロナ禍にあるため話し合いは省き、レポートの提出とした。 2) カードゲームを用いてビジネスマナーと接客マナーに関する知識の実践を促した。 3) サービス接客マナー検定の2～3級過去問題を解説し、様々な分野におけるホスピタリティの実例指導をした。 4) 会食時の作法について、教室内での座学と模擬練習を行い、洋食フルコースランチのテーブルマナー実習を学外で行った。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
1) 学生がマナーや表現力を考える上で、現在のビデオ鑑賞の上映は、短い時間でも、レポートでの振り返りであっても有効であった。ホスピタリティに関する他の映像の選出にも力を入れ、実施したい。 2) すぐろくカードゲームを用いた知識の実践は、学生には好評だった。が、学生がグループでの作業になれていなかったためか、この取り組みでの成果は、講師としては期待以下であった。私からの解説を増やしたり、進め方に工夫が必要だと思う。 3) テーブルマナー実習を、開業したばかりのヒルトン長崎で行うことが出来、大変好評だった。課題は、学生の負担金額である。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
マナーとホスピタリティ		21L	4. 2		4. 1		4. 2		4. 1		51. 3分		4. 1				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
マナーとホスピタリティ		21L	必修	24	81. 0	6	25. 0%	8	33. 3%	6	25. 0%	4	16. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
実施無し																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
1) 知識だけでなく、実際の行動体験を通し、学生の気づきを促す機会を増やしたい。コロナ感染がおさまれば、ロールプレイ、グループ討議、インプロ実習を取り入れたい。 2) 宿題の提出と受講時間中の態度については、厳しい態度で講義に臨みたい。令和3年度は、熱心に受講する学生が多い中で、ルールや提出すべき課題を無視する学生が2名いた。課題への取組の重要性は、授業開始時に何度か説明することが必要である。姿勢や服装、言葉遣いにも乱れが出ないように、諦めずに指導助言をする。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏 名		七 條 和 子									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
1) 病理学に対する学生の意欲度や内容やレベルが、今年度はやや満足が得られていない結果だった。学生にとって実的な専門用語のわかりやすい説明を行う。 2) 薬学・衛生学については単元の説明課題を絞って行う必要がある。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
1) 病理学は、単元ごとの目標設定を具体的に決めて、易しい言葉で説明する。 2) 薬学・衛生学は、わかりやすい説明を実施する。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
1) 病理学の単元ごとの具体的内容を簡潔にまとめ授業を行う。授業への参加および理解度を増すために、身近な例を講義内容に加えて話し、質問をして全員に興味を持てるようにした。 2) 薬学・衛生学の単元を絞って授業を行う。身近な例を講義内容に組み込み理解度を増すよう話した。授業の終わりに学んだこと質問事項などを書いた小レポートを全員に提出してもらい、翌週の授業で回答した。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
成績分布、授業評価アンケートなどを参考にすると、 1) 病理学では、今年度は学生の意欲や理解度がやや下がった。授業時間の変更などがあり、今後は落ち着いてできるように教員の教え方について更なる改善が必要です。 2) 薬学・衛生学については健康を重視する社会情勢とコロナワクチンを始めとする薬学についての関心の高さが授業に対する興味つながったと思う。講義内容については更に改善が必要です。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科 目 名	対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
病理学	20S	3.7		3.5		4.0		3.6		57.3分		3.5				
薬学・衛生学	20L	4.5		4.4		4.5		4.1		60.0分		4.0				
科 目 名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
病理学	20S	選択	23	82.3	4	18.2%	10	45.5%	8	36.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
薬学・衛生学	20L	選択	17	90.3	10	58.8%	1	5.9%	6	35.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
アクティブラーニングおよびオフィスアワーについては今年度は実施していないので取り入れて見る必要がある。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) 病理学では、目標設定を今年度より少し引く設定し、単元ごとにまとめたわかりやすい言葉を使用して授業を行う。 (2) 薬学・衛生学については、理解を高めるための小テストの改善を行う。																

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		高木 郁子										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
前年講師の指導内容を参考にしながら、私の得意な所を取り出して授業計画を立てた。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
「茶の歴史」「茶道文化・例えば焼物、菓子、建築、懐石、茶道具」「茶道の精神文化」等、茶道は統合芸術であることを伝える。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
（各人）感想レポートについて皆で考え、活発な発言を引き出す。レポートは授業内容を発展させて、詳しく書いている者もあり、大変効果的である。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
茶を点てる、飲む、茶室見学等、授業よりも体験することで、日本文化をより理解してもらった。大変成果があったと思う。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
日本文化概論		20S	4. 4		4. 6		4. 6		4. 4		30. 0分		4. 6				
日本文化概論		21L	4. 4		4. 4		4. 4		4. 4		24. 0分		4. 5				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本文化概論		20S	選択必修	7	91. 6	6	85. 7%	1	14. 3%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
日本文化概論		21L	選択必修	10	87. 2	6	60. 0%	3	30. 0%	1	10. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
1年目の手さぐり授業をもっと充実させたいが、凡今年度の方法で計画で良いと思う。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏 名		田 川 千 秋										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
①自分の日常生活をどのように営んでいるか、自分の行動をふり返ってもう一度自分の生活を意識してもらう、健康とは何かを考え細かく文章化をしてもらったが、書くという行為に面倒だという声があるため、行動の時間を短くした。 ②病院、福祉施設などに勤務することを想定し、実際に自力で車いす操作、介助を受けて移動する、視力障害（全盲）を想定し平道と階段の杖歩行体験を実施したが、やや空間認知が苦手が学生がいた。空間認知が苦手なスムーズな演習ができなくても諦めずに取り組んでる様子があった。 ③自分が生活するうえで、希望すること、好きなこと、嫌いなこと、また今回は健康についても書きだしてもらったが、学生の悩みなどが見えてくる。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
①実際にできなくても障害のある人、高齢者の方々へは配慮が必要なこと、人を支援すること、介護について理解してもらいたい。 ②自分の生活行為について考えられる機会を増やす。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
面倒でも生活がどのような行為から成り立ち、行動をしているのか、その行為ができなくなったときどうするのか 考え、街中でも経験できる移動（白杖、麻痺を想定した杖歩行、自走・介助による車いす移動）を実施した。 演習に必要な物品を伝えていたが、約半数が忘れていた。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
アンケートの結果から満足、理解していると思われるが、はじめて杖歩行、車いす走行など体験するため、大声が出やすく、他科の授業に支障が出ているように思われる。 演習中の場所の設定に工夫が必要と思われ、授業に時期によるが外庭等を使用することも検討の必要がある。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
介護・救急法		20L	4. 3		4. 2		4. 3		4. 3		60. 0分		4. 0				
介護・救急法		21L	4. 4		4. 3		4. 3		4. 3		18. 8分		4. 3				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
介護・救急法		20L	選択	17	78. 2	0	0. 0%	8	47. 1%	9	52. 9%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
実施なし																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
レポートについて、記入中に気づいたことを伝えている。また返却しないものがあることを伝え了解がある。今後も同様にする。積極的に授業の参加していたと思われる。 演習に必要な物品の指示が出し遅れ約半数の学生が忘れていた。身体に触れる場面もあり、コロナ渦で、また季節的にインフルエンザの流行の時期でもあり感染予防のため、人の物を借りることはさせないように注意、配慮、準備物への指示の再確認が必要であった。 学生への指示を出すタイミングについて再考したい。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		大安 貴佳子									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) 専門的な知識の多い科目であるため、用いる用語を工夫したり、身近な事例を取り入れることで馴染みやすい内容を充実させたりし、学生が授業に対して抵抗感を抱かないようにする。 (2) 「子どもの健康と安全」では知識だけでなく、現場ですぐに実践できるような学びを提供する。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
(1) 「医学一般」「子どもの健康と安全」とともにパワーポイントのレジュメを配布した。「子どもの健康と安全」では定期的に小テストを行い、授業の理解度の確認を行った。小テストは返却、解説を行い正答率の低い問題は特に時間をとってフィードバックをすることを心がけた。 (2) 必要に応じて応急処置のマニュアル等も配布すると同時に動画や実演を用いて詳しく説明をした。授業内容を網羅すると共に、自らの健康を守るために必要な知識を取り入れ、健康管理への意識づけも並行して行った。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
授業内容とレベルに関しては、どちらの科目でもほぼ適当であった、十分適当であったとの回答が多かった。しかし、授業の進め方において、レジュメの使いにくさやパワーポイントの見えにくさなど学生からいくつも意見をもらい改善すべき点が多くあると反省した。これらの内容は途中で学生に確認すればもっと早い段階で改善できることであったため、来年度以降は改善して臨むとともに、講義の途中で学生に対し要望がないかの確認をしたいと思う。 「医学一般」は期末試験を用いなかったが、来年度も同様とする。しかし内容理解の程度について判断材料が乏しく難しい為、来年度は今年度以上に学生が考えて主体的に授業に参加できる内容を工夫したい。「子どもの健康と安全」では、試験を実施したが、高得点をとってくれた学生が多かった。試験範囲についてやや助言が多かったのではないかと反省する部分もある。もちろん学生が意欲的に復習に取り組んでくれた背景もあると思うので、幅広く内容を理解してくれるよう、試験の作り方も考える必要があると感じた。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科 目 名	対象学生	内容やレベル			教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度			
医学一般	21L	4.5			4.7		4.6		4.5		38.2分		4.6			
子どもの健康と安全	21Y	4.6			4.6		4.4		4.5		41.7分		4.6			
科 目 名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
医学一般	21L	選択	22	90.2	12	54.5%	9	40.9%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの健康と安全	21Y	選択	96	86.0	37	38.5%	46	47.9%	13	13.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
「医学一般」「子どもの健康と安全」とともにアクティブラーニングを実施。授業の14, 15回目にあたる部分に関しては提出物をもって評価とした。授業内で返却ができず、学生にフィードバックできなかったためより深い学びにつなげられなかった。質問等がある場合の連絡先は周知したが、オフィスアワーがなく学生たちには気軽に疑問点を解決できる場面が少なかったのではないかと感じる。																

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- （１）学びやすい、使いやすい資料作りに努め、学生の学習意欲をそがないようにする。
- （２）提出物に対して返却時フィードバックを行い、学びを深めるサポートを行う。
- （３）学生とコミュニケーションを多くとり気軽に意見を言い合える関係作りに励む。

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏 名		寺 谷 陽 子										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
ただピアノを弾くのではなく、常に子ども達がいるイメージをし、表情を見たり、気配りが出来たりと心の余裕を持てるよう自分の課題達成にあった練習方法を身につけること。出来た喜びを感じ、根気強く練習に取り組める姿勢を身につけることが課題にあがっていた。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
課題達成のために、本時の課題を学生と共有する。 保育者として挨拶、身なり等を意識し、常に人前に立つ状況をイメージさせる。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
レッスンの中でピアノの事だけでなく、生活面も含め話しやすい雰囲気作りを心掛けた。実技面では個々のレベルに合わせて、少しずつでも出来たという達成感を得られるよう取り組んだ。 常に子ども達が周りにいることを意識し、話し方、身なり等、保育者になることを意識させた。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
保育者になる。そこで必要な技術を習得しようという意識が薄く、また試験までの計画性も甘く、完成度が全体的に低かったように思う。保育の現場を想定した上での練習の仕方を自分で考えられるような指導をしていかなければと感じる。練習へ向かう意欲を促す声掛けをしていきたい。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度					
保育と音楽表現		20Y	4. 4		4. 4		4. 5		4. 5		93. 8分	4. 4					
子どもの歌と伴奏法		21Y	4. 4		4. 8		3. 8		4. 8		93. 8分	4. 6					
科 目 名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価												
					S		A		B		C		F		W（脱落）		
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	
保育と音楽表現		20Y	選択	9	69. 3	0	0. 0%	0	0. 0%	5	55. 6%	4	44. 4%	0	0. 0%	0	0. 0%
子どもの歌と伴奏法		21Y	必修	8	81. 9	1	12. 5%	4	50. 0%	3	37. 5%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
なし																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
練習の継続が厳しいように感じた。中には、計画的に練習し着実に技術を伸ばしている学生も見られた。全体的には出来たという達成感を持つまでなかなか練習量が及ばず、ピアノへの苦手意識が拭えなかった学生も多かったように感じた。練習への意欲を促すことがとても課題だと感じている。根気強く、出来るまで練習する声掛け、練習方法の提示を個々人に合わせて提示していきたい。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		中嶋 浜子										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
基礎理論の理解が不十分で正確な読譜が厳しい学生も見られる中、保育現場で必要とされる楽曲をできるだけ表現豊かに弾き歌うためには、学生個々の技能に応じ、簡易伴奏法等を取り入れたり、伴奏のみに集中させたりしなければならない。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
・ 基礎理論を理解し、譜面から正しく読譜する。 ・ 保育現場に必要な「生活や季節の歌」を表情豊かに演奏する。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
・ 新しいテキストに沿って、曲の持ち味を生かした音楽表現をする。 ・ コード奏法等活用し、曲のイメージを損なわない程度の簡易伴奏を考えさせる。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
前期に比べると、やや下降したとはいえ、ほぼ満足といえる評価を得ることができた。今後さらに学生の興味関心を引くような指導内容の充実と予習復習への意欲化を図る。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
保育と音楽表現		20Y	3. 6		3. 6		3. 9		3. 9		85. 7分		3. 4				
子どもの歌と伴奏法		21Y	4. 0		3. 8		3. 6		4. 1		66. 7分		4. 1				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現		20Y	選択	9	76. 2	0	0. 0%	3	33. 3%	6	66. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
子どもの歌と伴奏法		21Y	必修	9	83. 4	3	33. 3%	5	55. 6%	0	0. 0%	1	11. 1%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
学生からの相談には、昼休みや空き時間、電話等で誠意を持って対応した。																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
・ 個別指導の長所を生かし、個々の学生の技量特性に応じた指導を行う。 ・ 前時の内容確認と復習を徹底することで指導の連続性を保つ。 ・ 重要な事柄は懇切丁寧に行う。学生にもレッスン記録を確実に記述させる。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		奈良 望										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
英語クラスで使用しているプリントは各専攻の内容に関わる英文の新聞記事等から取っている。例えば幼教ではアメリカ等の幼稚園・保育園などの様子、食物では子供の栄養問題や社会全般の肥満傾向などがテーマのものである。できる限り言語学習的に細かくならないよう心掛け、学生たちが内容を優先して比較文化的な興味と理解が持てるように意識している。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
今年度、授業内容そのものには大きな変更はなかったが、コロナ禍のため授業進行に予期せぬ変更を求められることがあった。幼児教育の学外実習の長期化・分散化のために例年以上に欠席率が高くなり、学期に3回行う小テストにその影響が出ていたが最終的には単位取得希望者の欠点は免れた。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
英語クラスで使用しているプリントは各専攻の内容に関わる英文の新聞記事等から取っている。例えば幼教ではアメリカ等の幼稚園・保育園などの様子、食物では子供の栄養問題や社会全般の肥満傾向などがテーマのものである。できる限り言語学習的に細かくならないよう心掛け、学生たちが内容を優先して比較文化的な興味と理解が持てるように意識している。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
英語はSLYに共通した科目であるが、学生アンケートを見ると専攻によって平均点や満足度が微妙に違っている。全般的のYの評価が低いのは免許必修であることと履修者数がSL合同クラスの3倍になるためであろう。履修者数の多少は会話練習の長さに直接影響することにもなる。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
比較文化		20L	4. 1		4. 0		4. 2		4. 1		32. 7分		4. 1				
英語		20Y	3. 8		3. 7		3. 8		3. 8		34. 6分		3. 8				
英語		21S	4. 0		4. 0		3. 5		3. 8		7. 5分		4. 0				
英語		21L	4. 6		4. 5		4. 4		4. 3		45. 0分		4. 5				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
比較文化		20L	必修	23	75. 9	0	0. 0%	8	34. 8%	14	60. 9%	1	4. 3%	0	0. 0%	0	0. 0%
英語		20Y	選択必修	91	79. 4	9	9. 9%	39	42. 9%	36	39. 6%	7	7. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%
英語		21S	選択必修	3	84. 3	2	66. 7%	0	0. 0%	1	33. 3%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
英語		21L	選択必修	12	82. 2	2	16. 7%	6	50. 0%	4	33. 3%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	

コロナの影響で幼児教育の実習日程変更が頻発し、結果として小テストの欠席者数が増加した。通常欠席者への対応は個別に行ってきたが、今回は人数が多かったため教員側で予め追試を数回設定し学生の希望に答えた。学内メールを欠席連絡に使うよう指導しており、授業及び小テストに関する質問もメールで来ることがある。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

来年度は担当者が変更する予定である。ただ授業履修の形態は変わらないと思われる。つまり幼児教育では全員履修でクラス約50人、SL合同クラスは10数人。この人数差を理解して授業内容及び進め方をそれぞれ工夫する必要があるだろう。

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		西田 聖子										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
病歴記録管理士認定試験全員合格																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
病院事務の仕事内容についてわかりやすく伝える。 学生にとって、病歴管理士の認定試験を受け合格するという目標がなくなったので、病院事務の仕事内容を幅広く伝えていきたい。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
前年度までは定期試験のみを行っていたが、今年度は定期試験と併せて、毎回の確認テストを行う予定としている。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
今現在起こっている医療現場の現状（特にコロナ対策状況）の理解は、予想以上に難しかったようであった。 試験対策も解答がない問題で、私自身確認不足で学生に不安を与えていたことに反省した。 テストに対しては、充分時間をかけて作成、解答作成を行うように心がける。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
医療事務総合演習		20L	4.0		4.0		4.4		4.2		96.0分		4.0				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
医療事務総合演習		20L	選択	5	80.2	0	0.0%	3	60.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
特に実施していない。																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
病院で働くイメージをわかりやすく伝える。 授業内容の確認テストを行い、問題点を把握する。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		林 徹									
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																
特段の課題は示されていませんでした。																
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																
レポートと報告では自主性を伸ばしつつ助言し、対戦ではルールや交渉のヒントを巡回しながら与える。																
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																
レポート課題で行き詰まっている学生さんに先にクリアしている他の学生さんが助言してくれていてよかった。おおむね、目標通りに実施できた。																
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
大幅に改善すべき点は見当たらない。クラスの規模に応じてひとりひとりの進捗を点検しながら臨みたい。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度				
経済学		20S	3. 7		3. 5		4. 2		3. 5		10. 0分	4. 0				
経済学		20L	4. 1		4. 0		4. 2		3. 8		30. 0分	4. 1				
科 目 名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
経済学	20S	選択必修	6	75. 3	1	16. 7%	1	16. 7%	2	33. 3%	2	33. 3%	0	0. 0%	0	0. 0%
経済学	20L	選択必修	22	87. 3	13	59. 1%	4	18. 2%	5	22. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
小演劇に挑戦する意欲的な学生さんが3割ほどいて自主性を尊重しつつシナリオ作成につき助言した。																
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																
クラスの規模に応じて、ひとりひとりの理解度を確かめながらいていねいに進めたい。																

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏 名		春 野 良 三										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
授業で脱落者を出さぬことが、目標の一つであった。今年度は脱落者を出さずに良かったと思う。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
① 商工会議所主催の簿記検定3級の受験者および合格者を多く出すこと。 ② 時間不足を補うため検定問題などを課題とし、演習し理解してもらう。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
① ここ2年間連続して検定問題の変更があり、その対応のための教科書選定に苦労した。 ② 商取引における各帳簿の記入法および財務諸表の記入法は、プロゼクターを使用し説明した。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
① 教科書利用により、変更点や重要ポイントなど、分かりやすく説明できたと思う。 ② アンケートにより昨年度より、やや満足度など減少していたので、次年度満足させるよう頑張りたい。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
簿記会計学2		21L	3.9		4.1		3.9		3.6		39.0分		3.8				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
簿記会計学2		21L	選択	10	73.7	1	10.0%	2	20.0%	3	30.0%	4	40.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
特にありません																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
① 簿記の基本を十分に理解していない学生が多いので、基本をしっかり身につけさせたい。 ② 講義での理解度を確認するうえで、課題のチェックをしっかり続け、助言もしっかりしたい。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		宮崎 美保									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考え、学生自ら考え動き楽しみながら向上していける授業を行う。 講義は、わかりやすく興味を持つ内容を取り入れて学習意欲向上を目指す。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) 実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。 (2) 学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫して授業を行う。 (3) 講義は、実体験やわかりやすく興味を持つ内容を取り入れて学習意欲向上を目指す。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
(1) 実技科目活動目標を各グループであげて、授業の終わりに自己評価するようにさせた。 (2) 活動意欲が沸くような課題を出したり、特に苦手な実技科目に対して意欲の低い学生には、動きの分析をしてわかりやすい説明・実技指導をしながら、一緒に楽しみながら課題克服を目指した。 (3) 講義は、実体験や興味を持つ内容をディスカッションも取り入れた。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
学習記録で目標を決めさせることでより活動意欲高まり、授業終わりに活動の振り返りをし自己反省をすることで次の授業の意欲につながった。学習記録をチェックすることで学生の困っていることや意見など把握でき、コメントを書くことでより良いアドバイスをすることができた。実技を見せながら説明したり、動きの分析をすることによりスムーズに課題克服し、できると自信につながった。グループ活動を増やした結果、学生同士のコミュニケーションも上手にとることができ互いに教え合いながら習得をしていく姿も見られ自ら工夫して活動できるようになった。学生ともさらにコミュニケーションが取れるようになった。体育講義の授業の後に学習記録を書かせることでしっかりと復習をすることができた。ディスカッションも取り入れて意見交換することで今まで以上に興味を持ち学ぶことができた。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科 目 名	対象学生	内容やレベル			教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度			
生涯スポーツ	21S	4. 6			4. 7		4. 2		4. 5		14. 3分		4. 7			
生涯スポーツ	21L	4. 8			4. 7		4. 7		4. 7		22. 0分		4. 7			
科 目 名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生涯スポーツ	21S	選択 必修	21	76. 2	2	9. 5%	6	28. 6%	9	42. 9%	4	19. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
生涯スポーツ	21L	選択 必修	16	79. 2	2	12. 5%	6	37. 5%	7	43. 8%	1	6. 3%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																

授業後に実技課題など上手くできないと質問・相談があり、運動の分析の仕方・習得の方法を指導し、一緒にその課題克服を目指した。できるようになりそれが自信となって楽しんで活動する姿が見られるようになった。授業以外でも運動をする習慣が増えてきている。コミュニケーションを上手く取れないとの相談にもアドバイスを
して授業中も見守りながら声掛けをして楽しく授業ができるように導いた。体育講義は、身近なものや実体験を
話すことで共感したり、さらに興味を持つようになり、悩みや疑問に思っていたことなど授業後に話に来る学生
が増えた。学生が求めている内容を授業に取り入れて向上につながった。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- (1) 実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。
- (2) さらに学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫してを授業を行う。
- (3) 講義は、実体験やわかりやすく興味を持つ内容でディスカッションなども取り入れて学習意欲向上を目指す。

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		宮崎 洋子										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
コロナ禍の中、カリキュラムを組んで進めようとしていた計画が思うようにいかず、学生それぞれが抱えていた課題の解決を終える事が難しかった。それでも、授業の際は前回の内容を踏まえてステップアップを目指し、少しずつではあるが糸口を見出し、次につながる方法をつかめていったと思う。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
1年生も2年生も授業が2週間に1度、時間のトータルは前年度と同じというスタイルで、予習と復習が以前にも増して、とっても重要になってくると思う。特にレビューをどれだけやったかで定着率は変わってくると考える。それには、レッスンの前にどれだけ準備が出来るかにかかってくるので、その大切さとやり方をマスターしてほしい。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
一人一人の授業時間を1回で終わらせるのではなく、授業時間の中で交代しながらやっていく。小さな課題を自主練習の時間の中で解決できるように、私自身も内容やレベルに気を配りながら進めていきたい。そして、その課題の結果を必ず確認してから授業を終わらせたい。この繰り返しが最終的な実力に結びつくと思う。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
子どもの歌と伴奏法は、近年まれにみるSが3名、Aが5名と高い数値になっている一方で、Cの評価の学生も居るので、二極化が進まないように注視していかなければならない。 保育と音楽表現は、アンケートや評価も全体的に安定した数値を示していたので、この授業の必要性を認識し学んでいてくれたのではないかと推しはかれる。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度					
保育と音楽表現		20Y	4.3		4.4		4.4		4.4		93.3分	4.6					
子どもの歌と伴奏法		21Y	4.5		4.2		4.4		4.5		84.5分	4.2					
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現		20Y	選択	9	77.2	0	0.0%	3	33.3%	6	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの歌と伴奏法		21Y	必修	11	83.3	3	27.3%	5	45.5%	1	9.1%	2	18.2%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
なかなか学生と時間を合わせてやっていくことが、難しく昼休みなど利用して質問に答えていった。																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
次回までの授業のモチベーションを下げず持ち続けていってもらうために、学生それぞれのレベルを把握し、スモールステップを重ねて保育士としての必要な知識・見識を備えていけるように進めていきたい。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		村川 千佳									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
1. ピアノの定期試験に向けての指導と併せて、保育の現場で役立つ内容も取り入れた。 2. 就職後に、自信をもって短大での習得内容を活用できるようピアノ・歌唱ともに実力の向上を目指した。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
音楽の基礎力の育成と共に、豊かな音楽的な表現についても指導する。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
1. ピアノ・歌唱ともに技術の向上及び音楽的表現の指導の充実 2. 歌唱において、保育の現場で活かせる発声法・発語・表現の指導																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
学生のピアノの実力レベルは様々であるが、全員が熱意をもって、レッスンに取り組む姿勢が感じられた。今後も各学生のレベルを見極め、各々に有効な指導をしていきたい。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科 目 名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度					
保育と音楽表現	20Y	4.3	4.3		4.6		4.3		110.0分		4.4					
子どもの歌と伴奏法	21Y	4.3	4.6		4.2		4.2		114.0分		4.4					
科 目 名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	20Y	選択	9	79.4	0	0.0%	4	44.4%	5	55.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの歌と伴奏法	21Y	必修	10	83.1	0	0.0%	8	80.0%	2	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
授業後や空き時間に質問に訪れる学生については、極力時間を提供した。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
1. 音楽基礎力育成のため、理解しやすい指導を！ 2. 表現する喜びを体感してもらい、それを現場で活かしてもらえよう指導に努めたい。 3. 実務に活用できる柔軟な音楽力、人間の養成に努めたい。																

令和 3 年 後 期					授業評価報告書					氏名		村田 実智代					
1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)																	
基本的な楽典の理解 テクニックの向上 弾き歌いへの興味																	
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)																	
個人に見合った教材とスピードに配慮する コード奏法との関連																	
3. 今年度の活動内容・方法 (D0 : 実行)																	
楽典の基礎強化 練習方法の徹底 コードを自ら工夫する																	
4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
指使いを自ら決め、効率的な練習に導く 学習意欲に配慮した教材とスピード																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象 学生	内容や レベル		教員の 教え方		学生の 学習意欲		学生の 理解度		授業外 学修時間		全体的な 満足度				
保育と音楽表現		20Y	4. 3		4. 1		4. 3		4. 0		105. 0分		4. 1				
子どもの歌と伴奏法		21Y	3. 8		3. 7		3. 9		3. 8		72. 0分		3. 8				
科 目 名		対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
						S		A		B		C		F		W (脱落)	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現		20Y	選択	8	78. 6	2	25. 0%	4	50. 0%	0	0. 0%	2	25. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
子どもの歌と伴奏法		21Y	必修	10	80. 6	1	10. 0%	5	50. 0%	3	30. 0%	1	10. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
学生のモチベーションへの配慮																	
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)																	
学生の実力・モチベーションに合わせる 弾きうたいへの興味へ導く																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		山浦 直子										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
前年度の授業評価報告書では、何よりも学生が楽しさを感じながら練習に向かうことを課題として述べていた。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
(1) 何よりも“やる気”を起こすことを目標とする。 (2) 個人差があることを常に忘れず、学生が自信を持てるようなアドバイスを心がける。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
(1) ピアノ技術の習得と同時に内田先生の「コード奏法」の授業内容が生かされるように考慮した。 (2) 心を開いてピアノに向かうことで、身体がリラックスできて、生き生きとした自然な拍子感・リズム感を身につけることを目指した。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
それぞれの学生に適した対応ができるように最善を尽くしたつもりではあるが、まだまだ行き届かないところが多々あったと思う。その中で、ずっと心を閉ざしていた一人の学生が、後期の途中から笑顔が増えて、少しずつ楽しく練習に向かうようになったことは、大きな喜びであった。今後も、この経験を励みにそれぞれの個性と向き合い、きめ細かな導きとなるよう努力する。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
子どもの歌と伴奏法		21Y	4. 4		4. 4		4. 5		4. 5		92. 7分		4. 5				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもの歌と伴奏法		21Y	必修	11	89. 0	6	54. 5%	5	45. 5%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
実施していない																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
学生一人一人の現状を把握して、すでに修得できている演奏技術はしっかり認めて自信を持たせる。その上で、次のステップへ向かうために達成可能な目標を持って練習できるように導く。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		吉井 健二										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
学習力の向上が即卒業後の社会での実践力アップすることを心掛け、さらなる学習意欲向上に資するよう努めました。一応の成果を上げることが出来たのだと思いますが、さらなる学習意欲の醸成に努めたい。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
社会人として会社における事務部門の分野で即戦力となれるような実践力の向上を目標として取り組みたい。具体的な事例を数多く提示し理解力の向上に努めたい。																	
3. 今年度の活動内容・方法（DO：実行）																	
文書実務の検定（3級～1級）試験問題を中心に実践力の強化と理解力の向上を計り学習意欲をかきたてたい。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
事務管理という科目が地味で会社にとっても縁の下存在であり、大きなスポットを浴びることが少ない分野であることを勘案すれば相応の評価を受けていたと思います。さらなる努力を積み重ねたいと思います。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
事務管理		20L	4.3		4.2		4.5		4.3		36.8分		4.2				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
事務管理		20L	必修	23	89.6	13	56.5%	10	43.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
数多くの演習問題を中心に理解力を深めることに努めています。毎回事前の予習を含めプリントで演習問題を提起し理解力の向上に努めています。																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
社会人としての実践力と即戦力化を目指し、今学んでいることがいかに大切であるかを理解させ、さらなる学習意欲の向上に資したい。																	

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		吉井 学										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
生化学Ⅰでは学生の意欲を出させることが出来なかったと思われる。理解度は極端に割るに結果である。生化学は生物学と化学の重なり合った科目であり、高校までの基礎部分の履修だけでは教科書の言語の理解が難しく、また物質の代謝を理解しなければならないので相当に難解な学問であることは否めない。しかし、前年度まではメール等での質問が多かったが今年度の1年生からはほとんど質問が来なかった。さらに前年までは学生から小テストの実施希望があつて実施したが、今年度は小テストの実施をを拒絶されてしまった。学生の学習意欲は昨年よりは低いと分析する。結果として定期試験ではSとAの評価は各一人であり、他はC評価であつた。履修のためには生化学用語の理解が困難のようである。また、食物の機能が栄養機能だけでないため、生化学は三次機能である生体調節機能が重要な部分である。この生体調節機能については用語の記憶も必要である。「生体に対する疑問をもつ」ことが最も大事である。この疑問をもつことが1年生には未だ厳しいようである。次年度は代謝学にてもっと自分の体と機能について疑問をもたせ、その疑問に対する詳細な説明を行なう。また、2年生の生化学実験ではアンケート項目のほぼすべてにおいて前年度より上昇している。学生の意欲が上昇し、実験を積極的に行う学生が増加している。実験をとおして体内の変化を捉えられるようになった結果と思われる。学生の中には生化学をもっと勉強したいと訴えるものも増加していた。1年生の時には低かつた意欲も大幅に上昇した。今年度もそういう学生がもっと増えるような講義と実験を継続していく。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
「生体に対する疑問をもたせ、調査と推察をもたせる」ことが最も大事である。この疑問をもつことを伝えていく。今年度は代謝学にてもっと自分の体と機能について疑問をもたせ、その疑問に対する説明の肉付けを行う。また、2年生の生化学実験では学生の意欲が出て、実験を積極的に行う学生が増加している。実験をとおして体内の変化を捉えられるようになった結果と思われる。学生の中には生化学をもっと勉強したいと訴えるものも増加していた。今年度もそういう学生がもっと増えるような講義と実験を継続していく。生体機能とそれに係わる物質の関連を理解できるような授業を実施する。学生が生体に疑問をもつスタイルのQ&A学習を行う。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
生化学実験は学生の意欲を向上させられた、まずまずの成果であると認識する。今後も実験の楽しさとその結果から導き出される結果の解釈や内容の理論的な事柄を学生自身が理解できるようにする。 1年生は生化学に必要な言語を理解することから再履修の必要がある。また、学生が代謝図とその説明ではなく、文字の板書を欲しているようである。これは教科書を読むことなく、教員の要約だけに頼ろうとしているものと考えられる。今後は本読みの自宅学習を是とし、授業では代謝等であってもできるだけ文字の記載を行う。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
生化学実験は学生の意欲を向上させられた、まずまずの成果であると認識する。今後も実験の楽しさとその結果から導き出される結果の解釈や内容の理論的な事柄を学生自身が理解できるようにする。 1年生は生化学に必要な言語を理解することから再履修の必要がある。また、学生が代謝図とその説明ではなく、文字の板書を欲しているようである。これは教科書を読むことなく、教員の要約だけに頼ろうとしているものと考えられる。今後は本読みの自宅学習を是とし、授業では代謝等であってもできるだけ文字の記載を行う。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
生化学実験		20S	3.8		4.1		4.5		3.8		126.8分		4.0				
生化学Ⅰ		21S	2.9		3.1		3.3		2.3		24.8分		2.8				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生化学実験		20S	選択	23	80.2	7	31.8%	4	18.2%	5	22.7%	6	27.3%	0	0.0%	0	0.0%
生化学Ⅰ		21S	必修	23	62.8	1	4.3%	1	4.3%	0	0.0%	20	87.0%	1	4.3%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	

メールアドレスを公開して、24時間、いつでも質問を受けるようにしている。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

ヒトの代謝が理解できるようにする。食べたものが何に変化していくのかを知ってもらう授業を行う。

令和 3 年 後 期 授業評価報告書					氏名		吉田 智子										
1. 前年度の成果と課題（CHECK：検証）																	
昨年度の授業評価報告書では、実技は具体的な練習方法を伝え、練習の大切さを伝える、そしてレッスンではコミュニケーションをとりながら練習の大切さを伝えることが課題に挙がっていた。																	
2. 今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
（１）現場ですぐに使えるような演奏力、歌唱力を少しでも向上させる練習方法を伝える。（２）練習の大切さの意識が低い学生への対応を考える。																	
3. 今年度の活動内容・方法（D0：実行）																	
（１）伴奏付けなどアレンジなど工夫することにより、弾きやすくまたかっこよくなることなど伝えることを心がけた。（２）私自身の経験談を話し、練習の大切さを伝えるよう心がけた。																	
4. 今年度の成果と課題（CHECK：検証） ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																	
実習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だと感じた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るよう心がけようと思う。																	
学生による授業評価アンケートの結果																	
科 目 名		対象学生	内容やレベル		教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
保育と音楽表現		20Y	4. 4		4. 6		4. 3		4. 4		73. 3分		4. 7				
子どもの歌と伴奏法		21Y	4. 5		4. 8		4. 5		4. 5		78. 8分		4. 6				
科 目 名		対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W（脱落）	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現		20Y	選択	9	67. 2	0	0. 0%	2	22. 2%	6	66. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%	1	11. 1%
子どもの歌と伴奏法		21Y	必修	8	80. 5	1	12. 5%	3	37. 5%	4	50. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																	
授業後、質問がある場合はその場でできる限り対応している。																	
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																	
（１）演奏力を少しでも向上させる練習方法を伝える。（２）コミュニケーションをとりながら練習の大切さを伝える。																	